

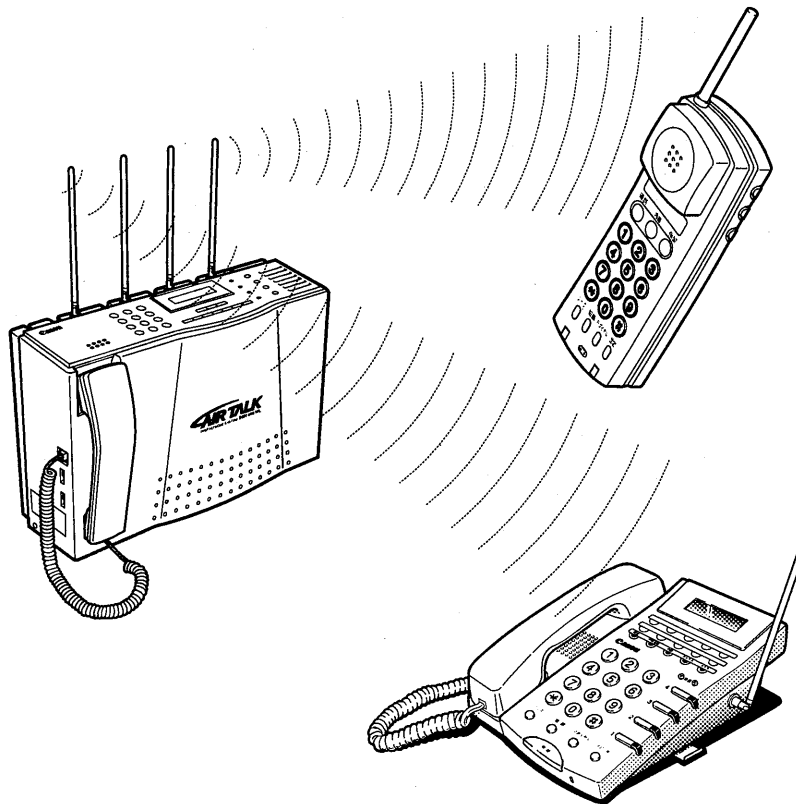
**Canon**

CANON DIGITALPHONE SYSTEM

**DIGI 408 WL**

**AIR TALK**

# 工事説明書



**ZY8-2016-101**

## はじめに

本工事説明書には、DIGITALPHONE SYSTEM DIGI408WL サービスマニュアルから工事、パワーオン、診断等の設置に関する情報（オプションカードの増設、及びこれに関連する取付け工事を除く）について抜粋した内容が記載してあります。

尚、システムデータ登録の詳細は、別紙の「サービス・データ・シートの手引き」を、無線障害等が発生した場合のトラブルシューティング、及びその他の診断機能等については「サービスマニュアル」を参照してください。

## 目次

はじめに	
工事の作業手順	
1 システム構成	4
2 開 梱	7
3 外観寸法	11
4 設 置	14
4-1 工事を始める前に	14
4-2 マスター電話機（主装置）の工事	16
4-3 電話機の工事	20
4-4 付属工事	22
4-5 スイッチ概要及び各種調整	25
5 パワーオン	27
5-1 電源をONする前に	27
5-2 電源投入	28
6 初期化	33
6-1 イニシャルスタート	33
6-2 ユーザデータ初期化	34
7 システム診断	36
7-1 システム診断の概要	36
7-2 オートモード	37
7-3 確認モード	38
7-4 診断結果表示	42
8 環境モニタ【着信テスト】	48
9 課金データ転送	51
10 エラー表示	54
11 無線対策	58
11-1 制御チャンネルの変更	58
11-2 通話チャンネル方式の変更	60
11-3 その他	61

Copyright © 1995 by Canon Inc.

キヤノン株式会社

情報機器品質保証第二課

東京都大田区下丸子3-30-2

## ■注意事項

- 1) 工事は、「工事の作業手順」に従うこと。(→Page3)
- 2) 設置、配線、パワーオン時は、注意事項を参照し、それぞれの指示に従うこと。  
(→Page14、15、27)
- 3) パワーオン完了後は、必ずシステム診断、環境モニタ、課金データ転送を行なうこと。
- 4) 移動電話機は、バッテリーで動作することから、始めて使用する場合は、満充電まで約10時間の充電が必要である。(→Page29)

## ■用語説明

本工事説明書を読む前にあらかじめ覚えておきたい用語を下記に示す。

### No.〇〇〇：

システムデータの設定項目別に割り付けてある番号を示す。操作方法の詳細は、別紙の「サービス・データ・シートの手引き」を参照すること。

### マスター電話機：

マスター電話機（主装置）とも言う。サービス管理、局線（公衆網側）、及び内線相互を交換する役割をはたす交換装置をいい、内線電話機としての機能も併せて持っている。

### SLT：

Single Line Telephoneの略

☎マークの内線端子に接続する電話機を言う。公衆網等に2芯線で接続できる市販の一般電話機、多機能電話機、または（アナログ）ファクス等の総称。

### 無線電話機：

本製品に接続ユニットと無線を介して接続される専用電話機及び移動電話機の総称。

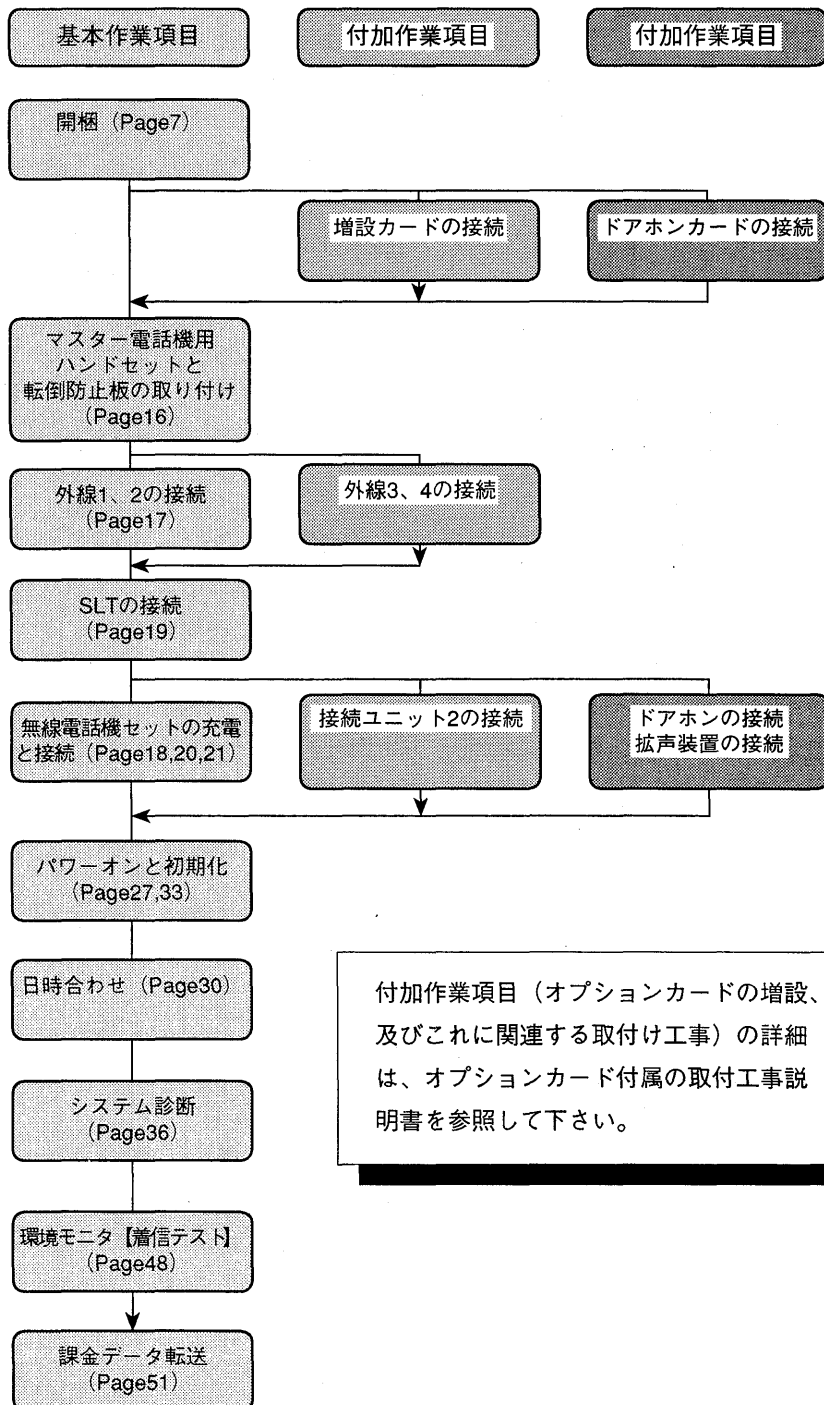
本文中で専用電話機と移動電話機の両方について表記する場合に用いる。

無線電話機	専用電話機（Standard Telephone：STD-TEL） 本製品に接続ユニットと無線を介して接続されるデスクトップタイプの小電力型コードレス電話機。 従来の有線式電話機が持つ機能と操作性を無線で実現した。
	移動電話機（Move Telephone：MV-TEL） 本製品に接続ユニットと無線を介して接続される移動機タイプの小電力型コードレス電話機。

## 工事の作業手順

効率良く作業をするために

1. 無線電話機、SLT、ドアホン、拡声装置の配置は、システム診断が正常に終了したあとに行なう。
2. イニシャルスタートの必須データを除くシステムデータの登録は、課金データ転送完了後に行なう。（別紙の「サービス・データ・シートの手引き」参照）
3. 移動電話機セットを設置する場合は、工事のはじめに電池の充電を行なう。（→Page29）



# 1. システム構成

本製品は、設置、増設、移設が簡単なフルコードレス電話システムである。

回線収容能力は、基本構成で外線2回線、無線電話機4セット（台）、SLT1台であるが、オプションカードを接続することにより外線2回線、無線電話機2または4セット（台）単位の増設が可能となる。

また、ドアホンカードの接続によりドアホン（カメラ付きも可）、及び拡声装置の接続も可能である。

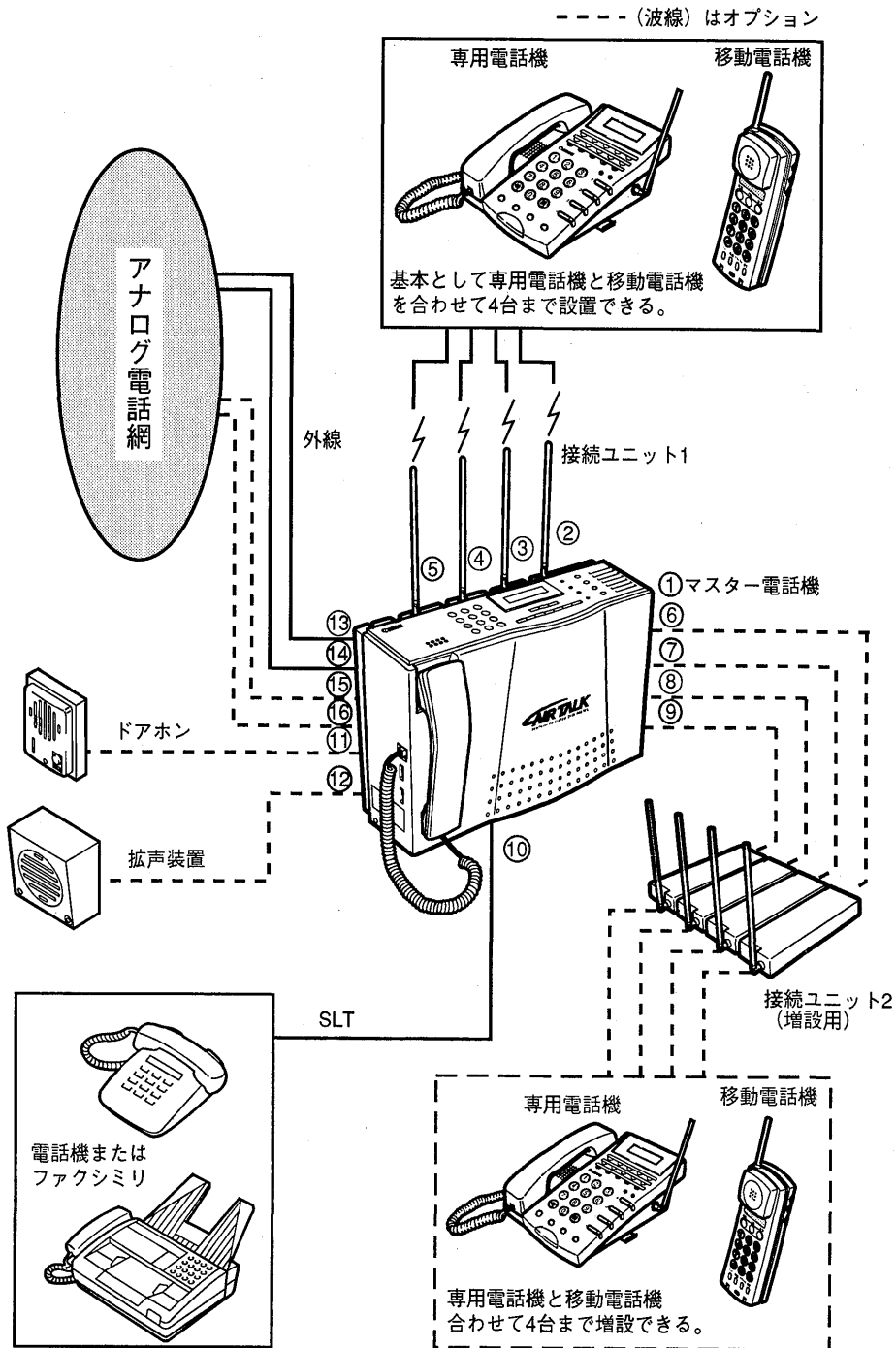


表1-1 システムの内訳

NO.	用途	内線番号 (工場出荷値)	端子番号*2	オプションカード	製品名称
①	内線 0	10	E00		マスター電話機
②	内線 1	11	E01		専用電話機セット1 移動電話機セット1
③	内線 2	12	E02		
④	内線 3	13	E03		
⑤	内線 4	14	E04		
⑥	内線 5	15	E05	2DLC CARD	
⑦	内線 6	16	E06		専用電話機セット2 移動電話機セット2
⑧	内線 7	17	E07	4DLC CARD	
⑨	内線 8	18	E08		
⑩	SLT (内線 9)	19	E09		
⑪	ドアホン (カメラ付き可)			DOOR I/F CARD	ドアホン子機 露出型玄関子機 カメラ付き玄関子機 テレビモニタ (露出型) 増設テレビモニタ (露出型) カメラ増設アダプタ 電源アダプタ (キヤノン販売調達品)
⑫	拡声装置				ベル拡声装置 (キヤノン販売調達品)
⑬	外線 1		C01		アナログ電話網 (NTT、PBX/CES、ルー) トKDD、その他)
⑭	外線 2		C02		
⑮	外線 3		C03	2COT CARD	
⑯	外線 4		C04		

\*1  はキヤノン販売調達品、及びオプションカードが必要であることを示す。

\*2 端子番号は、外線または内線別のデータ設定を行なう場合に用いる。

表1-2 商品構成

製品名称	略号	商品コード	備考
マスター電話機	ME	H62 - 0081	小規模構内交換機
専用電話機セット1	STD - TEL1	H62 - 0091	内線1~4の無線電話機セットとして任意の位置に接続する。
移動電話機セット1	MV - TEL1	H62 - 0111	内線1~4の無線電話機セットとして任意の位置に接続する。
専用電話機セット2	STD - TEL2	H62 - 0101	内線増設カードの実装により、内線5~8の無線電話機セットとして任意の位置に接続する。
移動電話機セット2	MV - TEL2	H62 - 0121	内線増設カードの実装により、内線5~8の無線電話機セットとして任意の位置に接続する。
2外線増設カード	2COT CARD	H62 - 4021	外線2回線の増設（外線3、4）を行なう。
2内線増設カード*	2DLC CARD	H62 - 403	内線2セット（台）の増設（内線5、6）を行なう。
4内線増設カード*	4DLC CARD	H62 - 4041	内線4セット（台）の増設（内線5~8）を行なう。
ドアホンユニット	DOOR UNIT	H62 - 4131	ドアホン、カメラ付きドアホン、拡声装置等の増設を行なう。

\* 2内線増設カードと4内線増設カードは、マスター電話機（主装置）の収容位置が共通なため同時接続できない。

表1-3 キヤノン販売調達品（推奨品）

区分	製品名称	略号	商品コード
ヘッドセット	DIGI専用電話機用ヘッドセット	—	HVT3903
ドアホン	ドアホン子機	DOOR - JAS	VT - 3076
		DOOR - JAD	VT - 3077
カメラ付ドアホン	露出型カメラ付き玄関子機	MY - CA	—
	カメラ付き玄関子機	MY - EA	—
	テレビモニタ（露出型）	MY - CU	—
	増設テレビモニタ（露出型）	MYH - CU	—
	カメラ増設アダプタ	MYW - P3CB	—
	電源アダプタ	PS - 18A	—
拡声装置	ベル拡声装置	CS - 191	VT - 3503
マスター電話機の壁掛け	主装置壁掛取付穴あけ図	—	—
	壁掛け板	—	—
	丸木ネジ×4	—	—
	タップネジ×2	—	—
専用電話機の壁掛け	電話機壁掛け台	—	—
	ハンガー	—	—
	丸木ネジ×2	—	—
充電台の壁掛け	充電台壁掛取付穴あけ図	—	—
	段ネジ×2	—	—

## 2. 開 梱

### マスター電話機（主装置）

パッケージを開梱後、下図の品物がそろっていることを確認する。

- |                     |  |
|---------------------|--|
| ・マスター電話機本体.....1    | ・保証書（PUB No.Z-WJ-004）.....1            |
| ・ハンドセットユニット.....1   | ・使用説明書（PUB No.Z-IJ-028）.....1          |
| ・8芯ラインコード（3m）.....1 | ・工事説明書（PUB No.Z-TJ-034）.....1          |
| ・8芯モジュラーローゼット.....1 | ・サービスデータシートの手引き（PUB No.Z-TJ-041）.....1 |
| ・転倒防止板.....2        | ・サービスデータシート（PUB No.Z-TJ-033）.....1     |
| ・タップネジ.....6        | ・サービスデータシート保管袋.....1                   |
| ・識別ラベル.....1        |  |

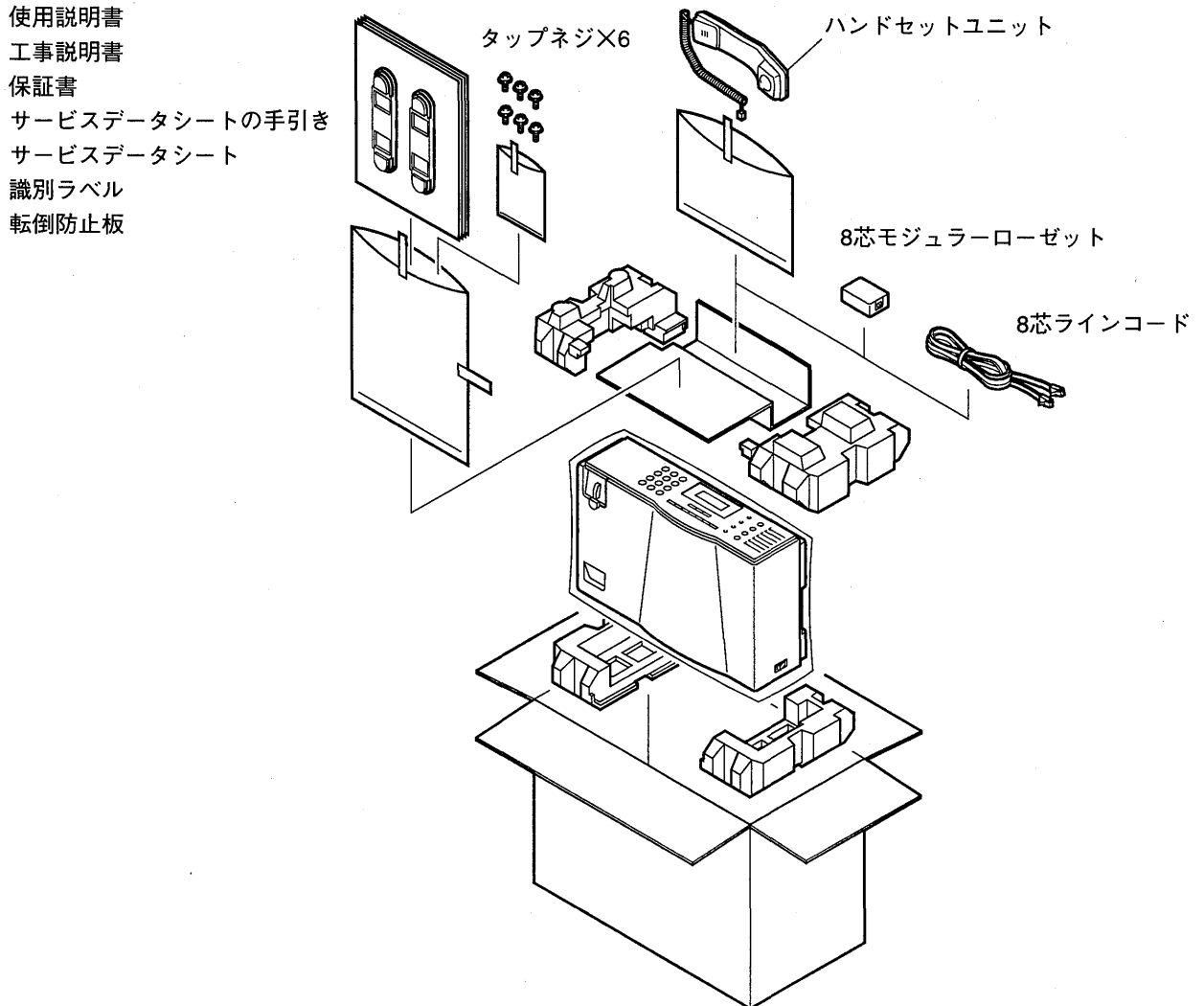


図2-1 パッキング



## 専用電話機セット

パッケージを開梱後、下図の品物がそろっていることを確認する。

・専用電話機本体 .....	1	・ファンクションシール .....	1
・接続ユニット1 (または2) .....	1	・ファンクションシート .....	1
・ハンドセット .....	1	・短縮シート .....	1
・カールコード .....	1	・操作早見表 (PUB No.Z-GJ-008) .....	1
・ACアダプタ .....	1	・2mラインコード* .....	1
・ワンタッチシート (1-5) .....	2	・連結板* .....	1
・ワンタッチシート (6-10) .....	2	・タップネジ* .....	4
・ワンタッチカバー .....	4	・段ビス* .....	2
		・接続ユニット2壁掛取付穴あけ図* (PUB No.Z-TJ-040) ...	1

\*印の同梱品は、内線端子番号05～08に接続する接続ユニット2タイプの専用電話機セットにのみ同梱される。

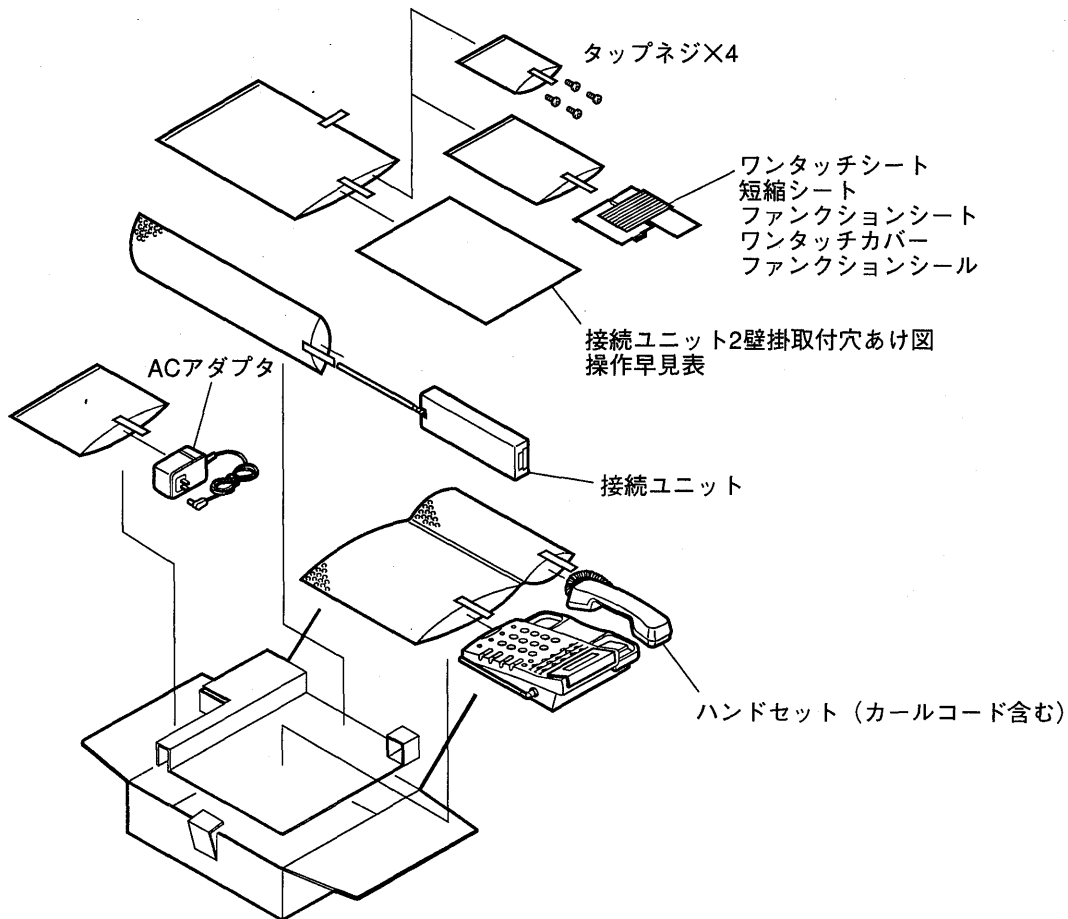


図2-2 パッキング

### NOTE

- ・ 接続ユニットと専用電話機は1対1のペアで使用する。それぞれのペアを識別するためにマスター電話機付属の識別ラベルを開梱時に貼り付けること。(→Page22)

## 移動電話機セット

パッケージを開梱後、下図の品物がそろっていることを確認する。

・ 移動電話機本体 .....	1	・ 2mラインコード* .....	1
・ 接続ユニット1 (または2) .....	1	・ 連結板* .....	1
・ 充電台 .....	1	・ タップネジ* .....	4
・ 電池 .....	1	・ 段ビス* .....	2
・ 内線番号シール .....	1	・ 接続ユニット2壁掛取付穴あけ図* (PUB No.Z-TJ-040) ...	1
・ 操作早見表 (PUB No.Z-GJ-009) ..	1		

\*印の同梱品は、内線端子番号05～08に接続する接続ユニット2タイプの移動電話機セットにのみ同梱される。

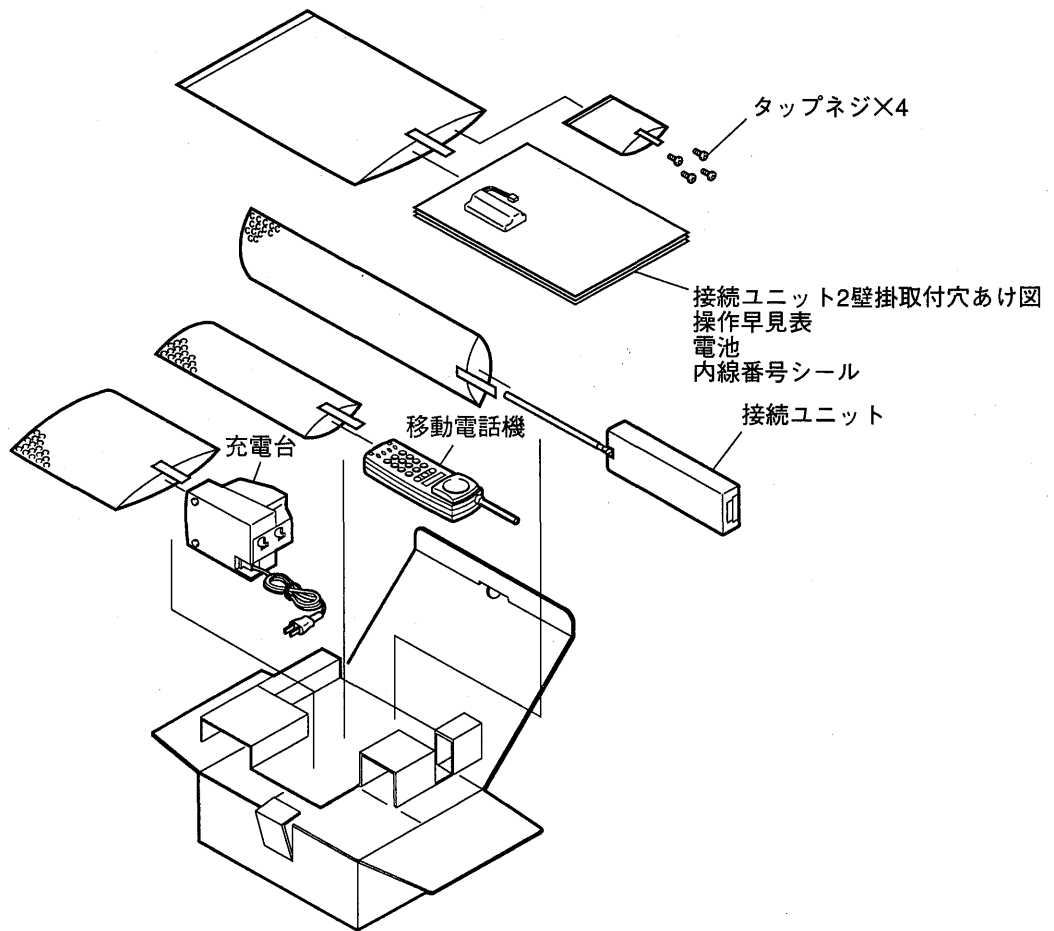


図2-3 パッキング

### NOTE

- 接続ユニットと移動電話機は、1対1のペアで使用する。それぞれのペアを識別するため、及び、移動電話機の裏表逆差し防止のためにマスター電話機付属の識別ラベルを開梱時に貼り付けること。(→Page22)
- 移動電話機とペアの接続ユニットは、できるだけ内線端子番号の奇数番に接続すること。(→Page18)

オプションカード

パッケージを開梱後、下図の品物がそろっていることを確認する。

2外線増設カード	—	2外線増設カード本体 .....	1
	└	取付工事説明書 (PUB No.Z-TJ-035) .....	1
2内線増設カード	—	2内線増設カード本体 .....	1
	└	取付工事説明書 (PUB No.Z-TJ-036) .....	1
4内線増設カード	—	4内線増設カード本体 .....	1
	└	取付工事説明書 (PUB No.Z-TJ-036) .....	1
ドアホンユニット	—	ドアホンユニット本体 .....	1
	└	取付工事説明書 (PUB No.Z-TJ-037) .....	1
	└	ダブルロックングスペーサ .....	4

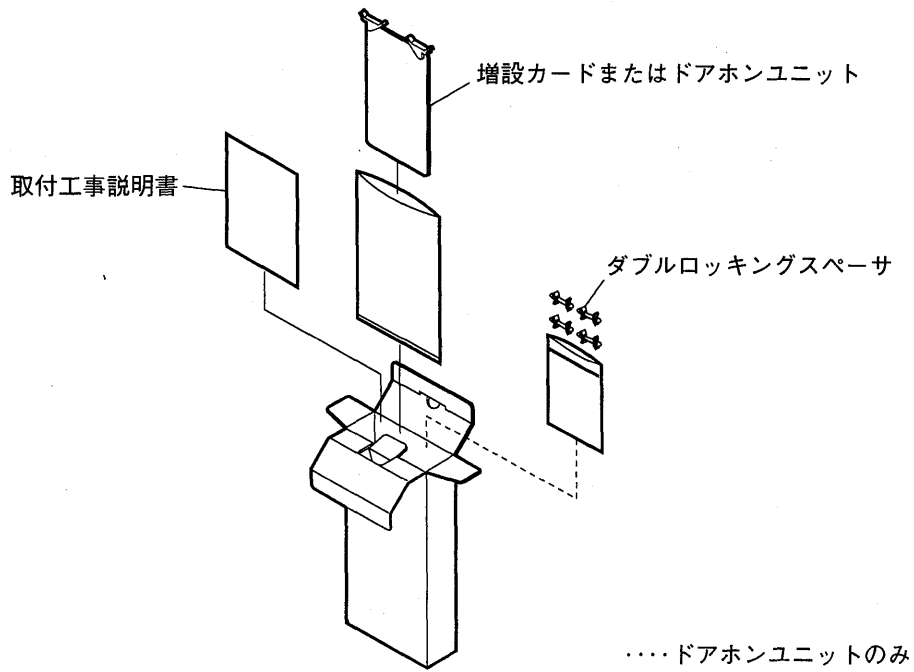


図2-4 パッキング

### 3. 外観寸法

#### マスター電話機（主装置）

マスター電話機を効率よく使用するために、適切なスペースを確保して設置すること。  
マスター電話機、接続ユニットの外観寸法を下図に示す。

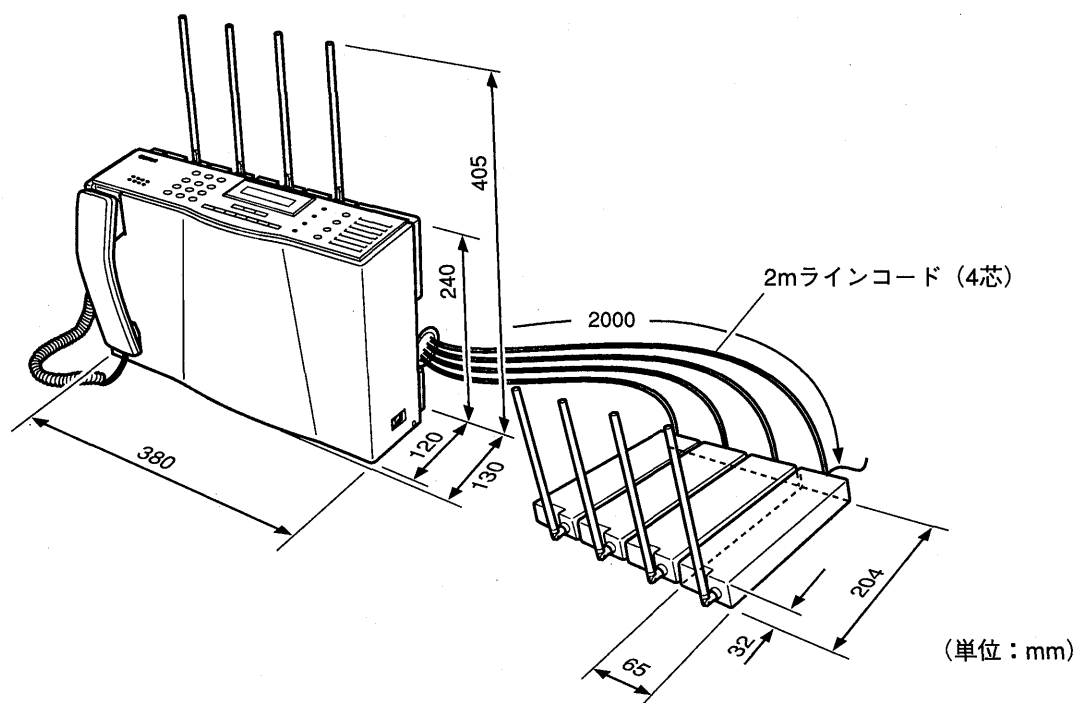


図3-1 設置スペース

- ・ 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、温度が上がる場所への設置は避けること。
- ・ 風通しの良い場所に設置し、密閉状態の場所への設置は避けること。
- ・ ノイズ防止の為、テレビ、ラジオ、オーディオ機器等から2m以上離して設置すること。また、交通の激しい道路付近の設置は避けること。
- ・ 高周波ウェルダ等、高周波を発生する機器のある場所への設置は避けること。
- ・ 金属、コンクリートの壁、電子機器、放送局、または無線局などコードレス電話機の使用周波数帯域（250MHz帯、380MHz帯）に影響を与える場所への設置は避けること。
- ・ 同種のシステム、及び市販のコードレス電話を近くに設置しないこと。
- ・ 水平で安定した場所に設置し、振動の多い場所への設置は避けること。
- ・ マスター電話機と接続ユニット2間は付属の2mラインコードを用いてできるだけ近い位置に設置すること。

## 専用電話機

専用電話機を効率よく使用するために、適切なスペースを確保して設置すること。  
専用電話機本体・ACアダプタの外観寸法を下図に示す。

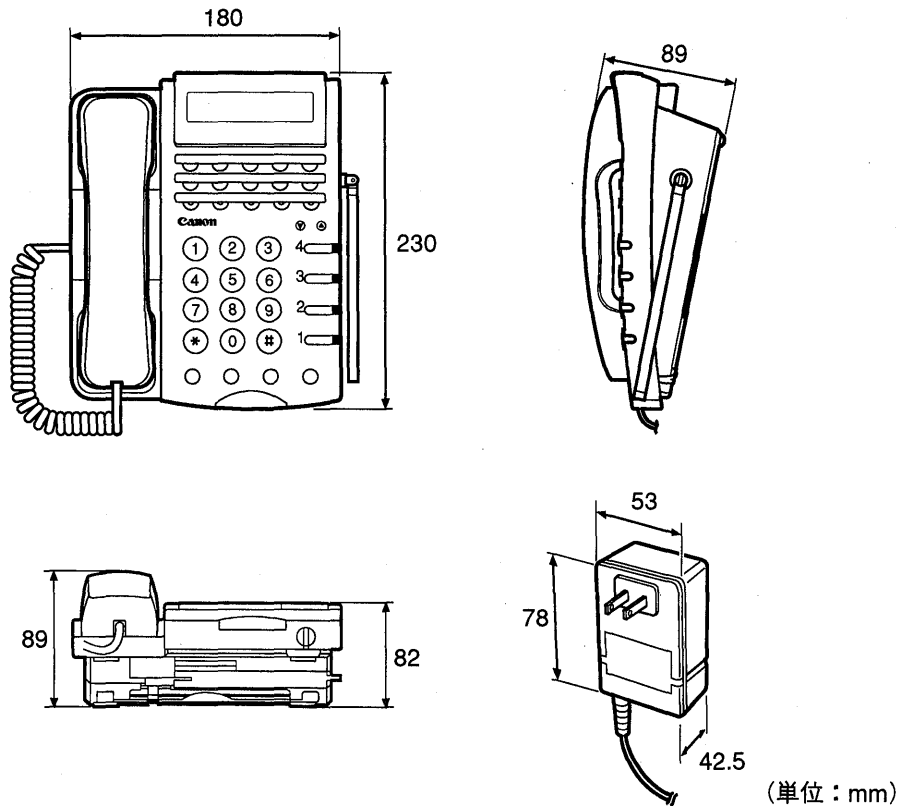


図3-2 設置スペース

- ・ 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、温度が上がる場所への設置は避けること。
- ・ 風通しの良い場所に設置し、密閉状態の場所への設置は避けること。
- ・ ノイズ防止の為、テレビ、ラジオ、オーディオ機器等から2m以上離して設置すること。また、交通の激しい道路付近の設置は避けること。
- ・ 高周波ウェルダ等、高周波を発生する機器のある場所への設置は避けること。
- ・ 金属、コンクリートの壁、電子機器、放送局、または無線局などコードレス電話機の使用周波数帯域（250MHz帯、380MHz帯）に影響を与える場所への設置は避けること。
- ・ 同種のシステム、及び市販のコードレス電話を近くに設置しないこと。
- ・ 水平で安定した場所に設置すること。また、振動の多い場所への設置は避けること。

## 移動電話機

移動電話機を効率よく使用するために、適切なスペースを確保して設置すること。  
移動電話機本体・充電台の外観寸法を下図に示す。

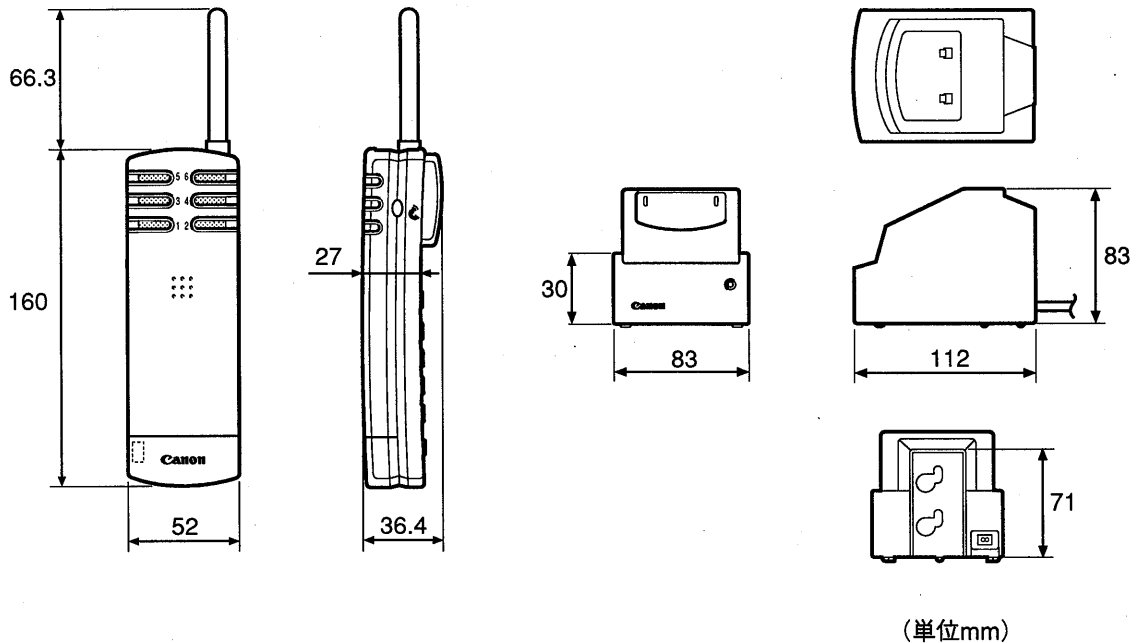


図3-3 設置スペース

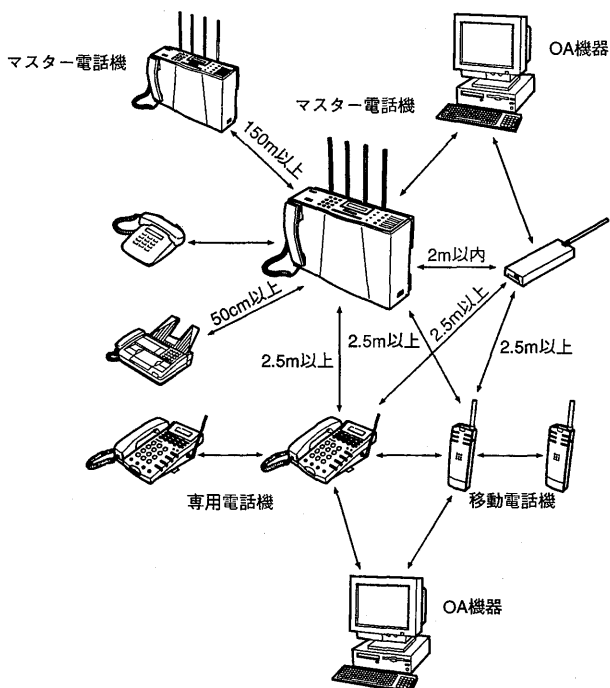
- ・ 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、温度が上がる場所への設置は避けること。
- ・ 風通しの良い場所に設置し、密閉状態の場所への設置は避けること。
- ・ ノイズ防止の為、テレビ、ラジオ、オーディオ機器等から2m以上離して設置すること。また、交通の激しい道路付近の設置は避けること。
- ・ 高周波ウェルダ等、高周波を発生する機器のある場所への設置は避けること。
- ・ 金属、コンクリートの壁、電子機器、放送局、または無線局などコードレス電話機の使用周波数帯域（250MHz帯、380MHz帯）に影響を与える場所への設置は避けること。
- ・ 同種のシステム、及び市販のコードレス電話を近くに設置しないこと。
- ・ 水平で安定した場所に設置すること。また、振動の多い場所への設置は避けること。
- ・ 移動電話機を設置する場合は、工事をはじめる前に電池の充電を行うこと。（→Page29）

## 4. 設置

### 4-1 工事を始める前に

#### 4-1-1 設置上の注意

- (1) 動作温湿度範囲は、温度0℃～40℃、湿度20～85%RHとする。
- (2) 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、温度が上がる場所への設置は避けること。
- (3) 風通しの良い場所に設置し、密閉状態の場所への設置は避けること。
- (4) 雑音防止の為、テレビ、ラジオ、オーディオ機器等から2m以上離して設置すること。また、交通の激しい道路付近への設置は避けること。
- (5) 高周波ウェルダ等、高周波を発生する機器のある場所への設置は避けること。
- (6) 金属、コンクリートの壁、電子機器、放送局、または無線局などコードレス電話機の使用周波数帯域(250MHz帯、380MHz帯)に影響を与える場所への設置は避けること。
- (7) 同種のシステム、及び市販のコードレス電話を近くに設置しないこと。
- (8) 水平で安定した場所に設置し、振動の多い場所への設置は避けること。
- (9) マスター電話機(主装置)と無線電話機間は、1m以上の間隔を置くこと。但し、「無線電話機設置状況表示」でCゾーンに設置してある無線電話機の台数が6台を越える場合は2.5m以上とする。  
(→Page32)
- (10) マスター電話機(主装置)と接続ユニット2は、付属の2mラインコードを用いてできるだけ近い位置に設置すること。
- (11) 接続ユニットと無線電話機の電波到達距離は、見通し距離で半径約100mであるが、環境条件により雑音が入ったり通話距離が短くなることがある。
- (12) (SLT)端子には、誤動作防止のため市販の小電力型コードレス電話機を接続しないこと。
- (13) マスター電話機(主装置)には、過電圧保護回路を組み込んでありますが特に多電地区で使用する場合は保安器を設置すること。
- (14) 本製品を設置する場合は次の点にも注意すること
  - ① 専用電話機、及び接続ユニット1のアンテナは地面と垂直になる方向に調整すること。
  - ② 壁掛けした接続ユニット2のアンテナは、壁から約30°傾けること。
  - ③ 固定する前に診断し条件のよい場所に設置すること。また、無線電話機を常時使用する場所と接続ユニットとの間に電波をさえぎる金属製品がないことを確認すること。
  - ④ 接続ユニットは、できるだけ床面から高い位置に設置し、無線電話機を利用する範囲の中心付近に設置した方が通話可能距離は広がる。但し、天井との間は50cm以上あけること。
- (15) 機器の設置は、下図を目安とした設置を行うこと。



- 本製品をOA機器等の近くに設置した場合、製品によっては雑音等の影響を受けることがあります。
- マスター電話機を中心とした無線電話機の設置禁止区域は、Cゾーンに設置する無線電話機の台数により異なります。  
(→Page32)

## 4-1-2 配線上の注意

(1) NTT側交換機の種類により異なる接続外線の線路抵抗は、次の範囲で使用する。

XB形、DEX形局	1, 700Ω以下
A形、H形局	1, 000Ω以下
C1形、C2形局	1, 200Ω以下

(2) マスター電話機（主装置）とSLT間の線路抵抗は、100Ω/ループ以内で配線すること。

(3) マスター電話機（主装置）とドアホン間の線路抵抗は、20Ω/ループ以内で配線すること。

(4) マスター電話機（主装置）と拡声装置間の配線長は17m以下で使用する。

(5) 雑音防止のため外線と内線ケーブルは、同一配管内に収容しないこと。

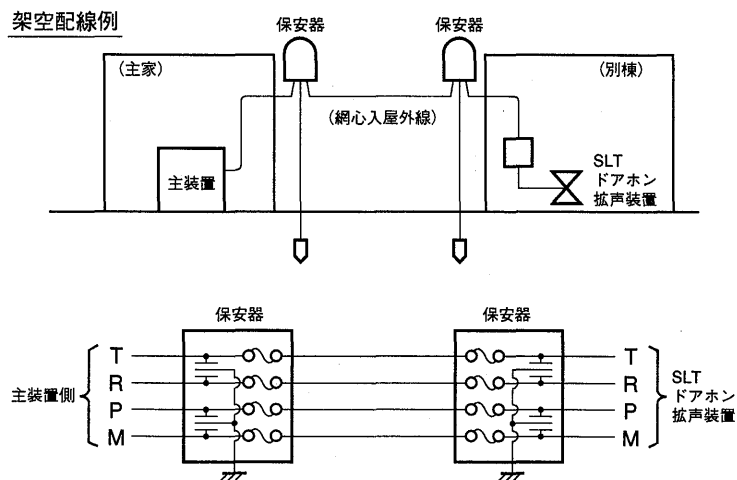
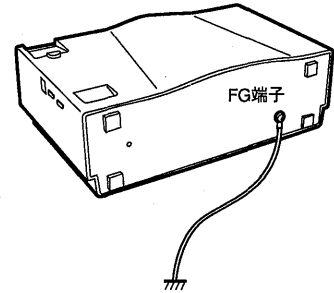
(6) ラジオ放送塔から近い場所（2km以内）、CB無線交信の多い場所等、強電界地区の配線はシールド線を使用し、アースを取ること。（1点アース）

(7) アースの付線は単独アースから取ること。（接地抵抗100Ω以下）

(8) 機器や配線ケーブルはOA機器等から3m以上離すこと。

(9) 架空配線について

配線を屋外に施工する場合は、雷サージ電圧保護の為、必ず保安器を用いた配線を行うこと。

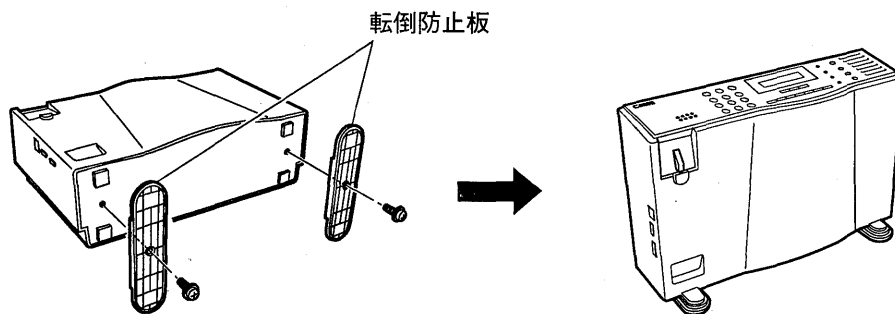


(10) 配線ケーブルをクランプで止めるときにケーブルを傷つけたり、強く止めたりすると障害の原因となるので注意すること。

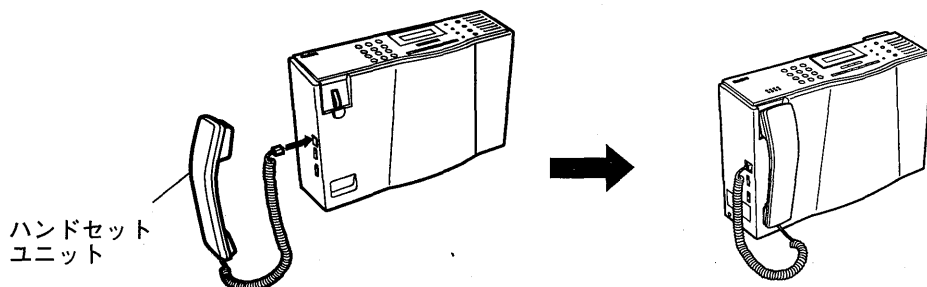


## 4-2 マスター電話機（主装置）の工事

### 4-2-1 転倒防止板の取り付け



### 4-2-2 マスター電話機用ハンドセットの取り付け

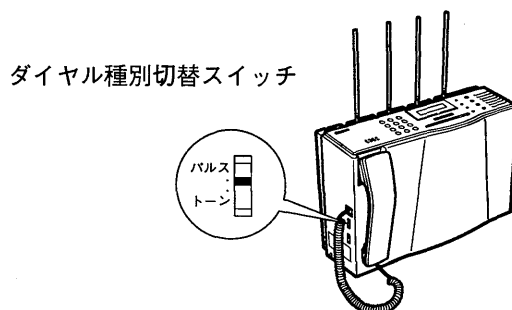


#### NOTE

- 電源投入の方法は、「パワーオン」を参照すること。（→Page28）

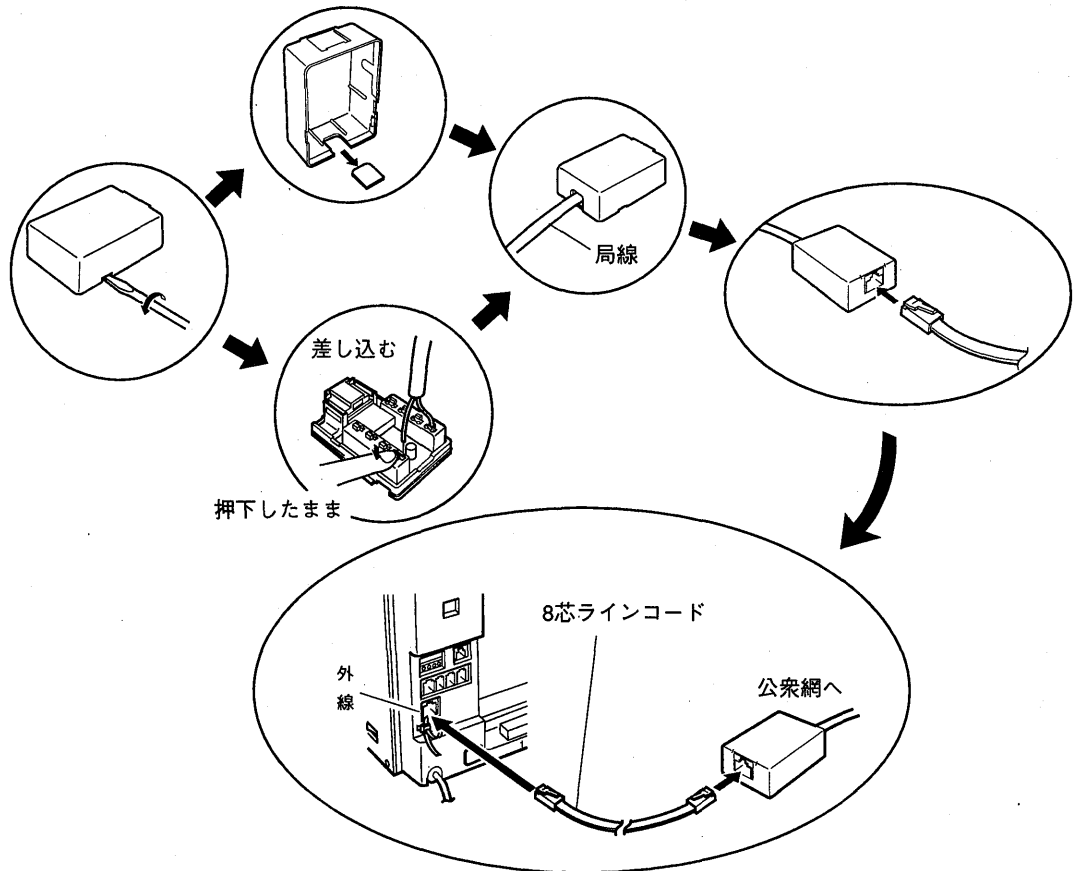
#### 停電対応

ダイヤル種別切替スイッチを外線1のダイヤル種別（トーンまたはパルス）に合わせる。  
通常、ダイヤル種別がどちらに設定されていてもかまわないが、停電時は、設定が違っていると着信に応答できるが、電話をかけることはできない。



### 4-2-3 外線（局線）の接続

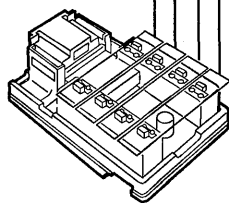
- (1) 付属の8芯モジュラーローゼットの上蓋を外す。
- (2) 上蓋から外線通路用のカバーを切り離す。
- (3) 裸電線(局線)をリリースボタンを押下したままクランプスプリングの穴に挿入する。
- (4) 上蓋を閉じた後、ローゼットとマスター電話機(主装置)間を付属の3m8芯ラインコードで接続する。



#### NOTE

- 8芯モジュラーローゼットのピン番号と外線端子番号は下記に従う。

ピン番号	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8
外線端子番号	CO4		CO3		CO2		CO1	



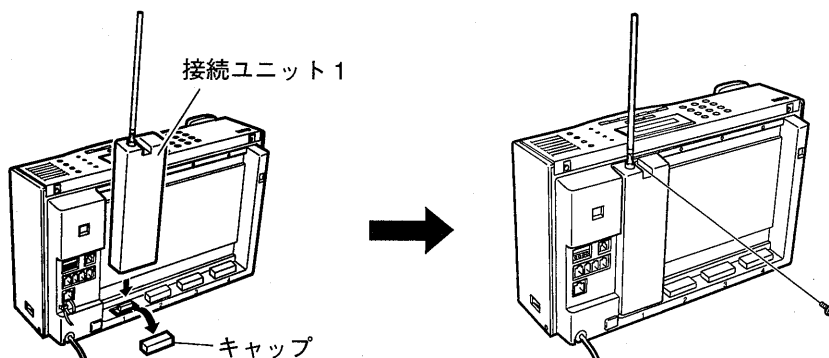
- 2ヶ所あるクランプスプリングの穴は導通していることから、裸電線（局線）はいずれかの穴に挿入すること。

#### 注意

- 外線3、4を接続する場合は、2外線増設カードの増設が必要である。

#### 4-2-4 内線1~4（接続ユニット1）の接続

- (1) キャップを外す。
- (2) 接続ユニット1を接続する。
- (3) タップネジで固定する。（マスター電話機同梱品 Page7）

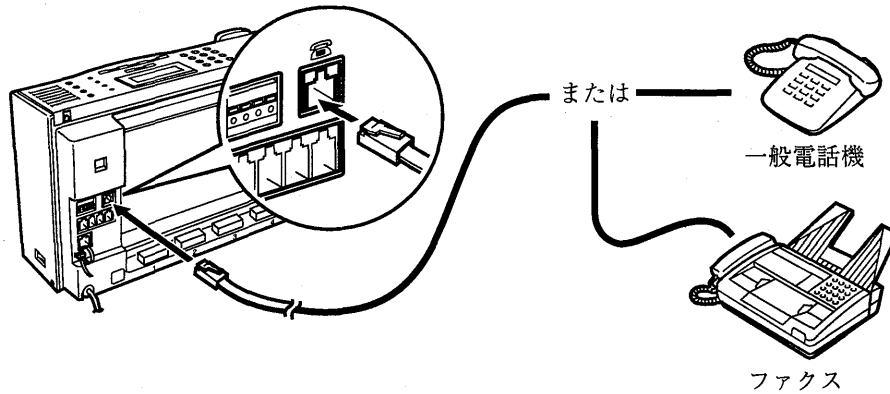


#### 注意

- 接続ユニットは、できるだけ内線端子番号の若番から順番に接続すること。
- 携帯電話機とペアの接続ユニットは、できるだけ内線端子番号の奇数番に接続すること。

## 4-2-5 SLTの接続

(1) ファクスまたは一般電話機とマスター電話機（主装置）間をラインコードで接続する。

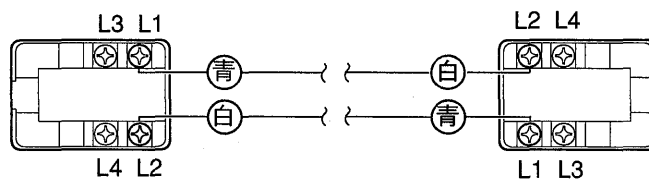


### NOTE

- マスター電話機（主装置）とSLT間は、50cm以上の間隔を置くこと。
- マスター電話機（主装置）とSLT間を長距離接続する場合の4芯モジュラーローゼットとラインコードのピン番号は、下記に従う。

コネクタピン番号	ローゼットピン番号	信号名	色
1	L1	T	青
2	L2	R	白

### 配線図



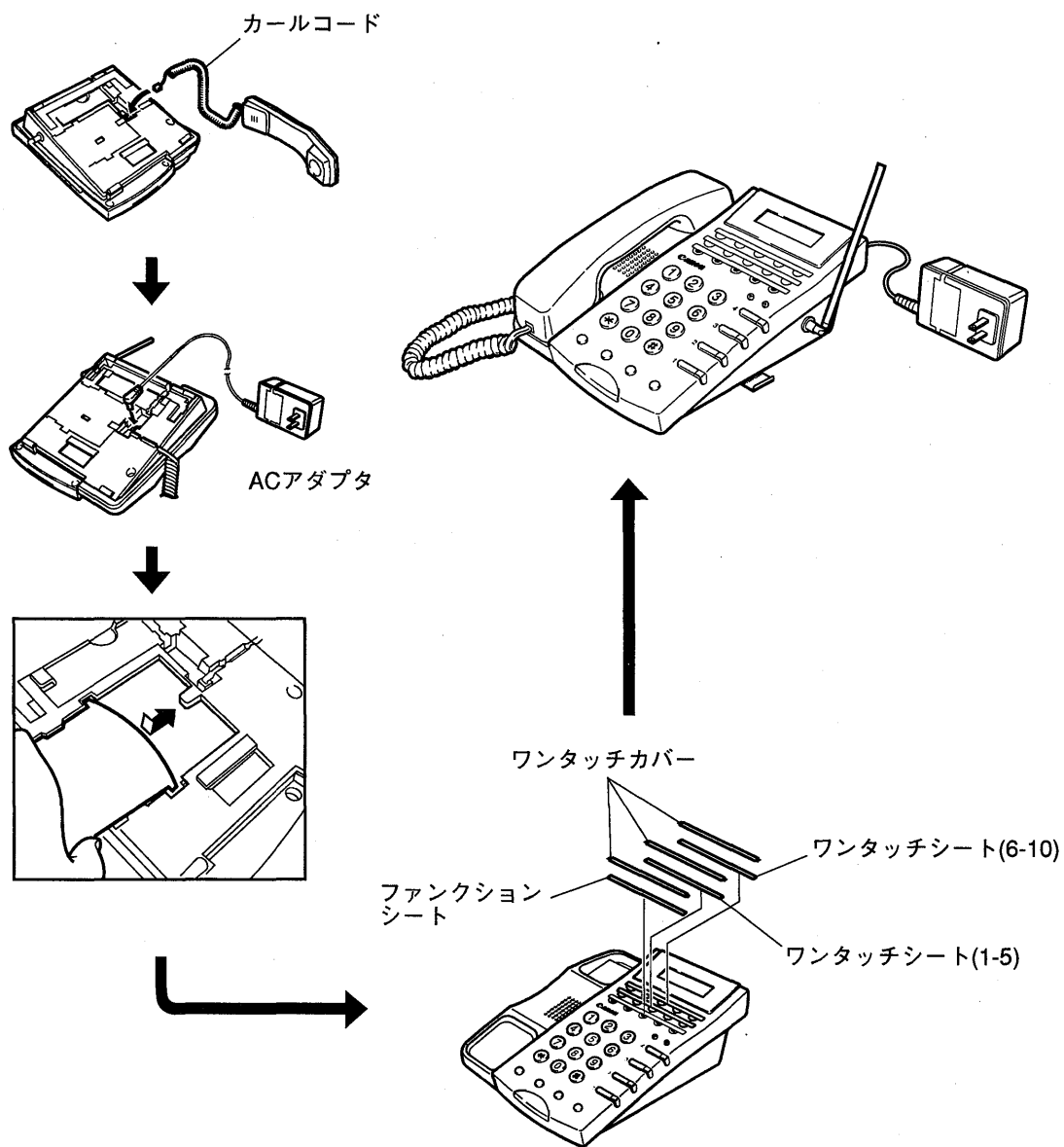
### 注意

- マスター電話機（主装置）とSLT間の線路抵抗は100Ω/ループ以内で配線すること。
- ☎（SLT）端子には、誤動作防止のため市販のコードレス電話機やコードレスファクシミリを接続しないこと。
- ☎（SLT）端子には、極性反転（外線が極反するとそれに同期して極反する）機能がないため極反をみる機能で動作するファクス等は接続しないこと。
- F網の無鳴動着信（1300Hz）は利用できない。

## 4-3 電話機の工事

### 専用電話機

- (1) カールコードをモジュラーコネクタに接続する。
- (2) ACアダプタをACジャックに接続する。
- (3) 短縮シートを取り付ける。
- (4) ワンタッチシート、ファンクションシートを取り付ける。



#### NOTE

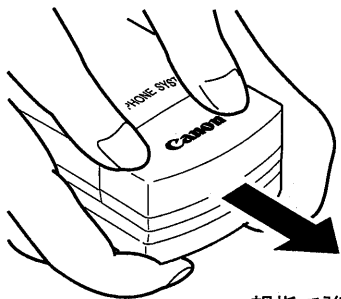
- 傾斜足の取り外し、取り付けは、「電話機本体の角度調節」を参照すること。(→Page24)
- 電源投入の方法は、「パワーオン」を参照すること。(→Page28)

#### 注意

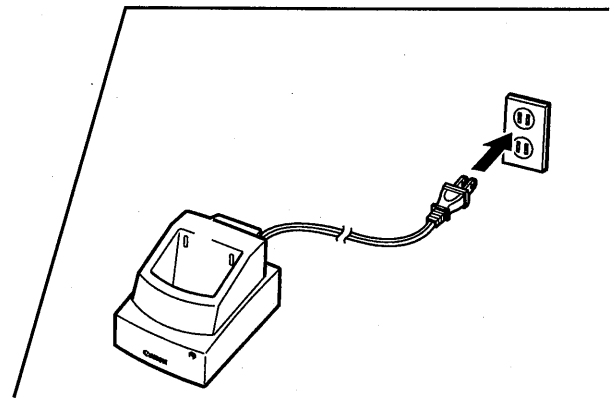
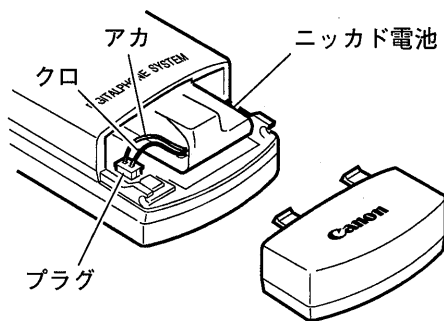
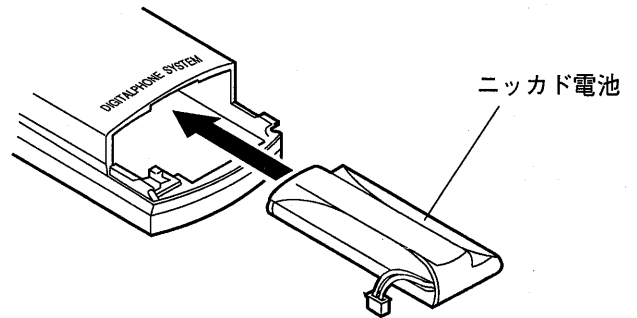
- 指定のACアダプタ以外は使用しないこと。

## 移動電話機

- (1) 電池蓋を外す。
- (2) 電池をセットし、プラグを差し込む。
- (3) 電池蓋を戻す。



親指で強めに押しながら  
スライド



### NOTE

- 電源投入の方法は、「パワーオン」を参照すること。(→Page29)

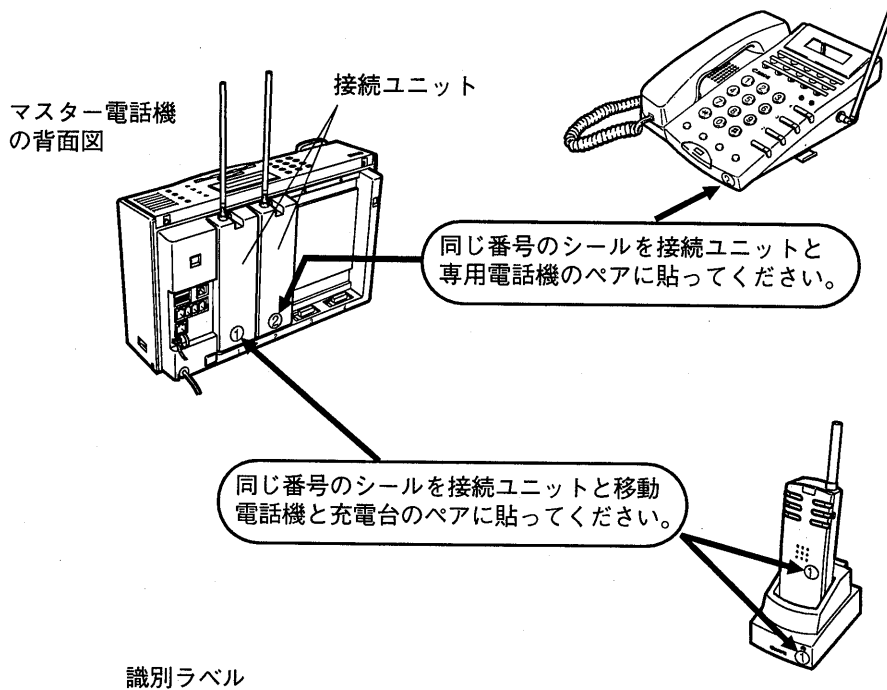
### 注意

- 指定のニッカド電池及び充電台以外は使用しないこと。

## 4-4 付属工事

### 4-4-1 識別ラベルの貼り付け

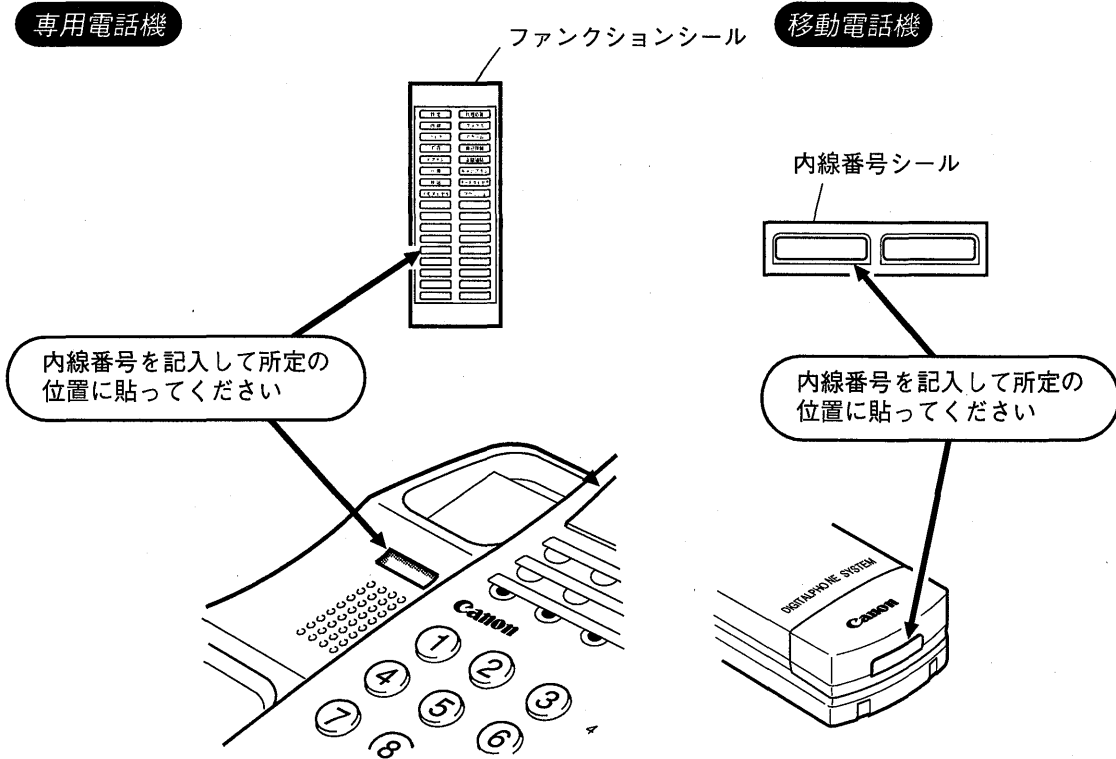
接続ユニットと専用電話機または携帯電話機は1対1のペアで使用する。それぞれのペアを識別するため、及び携帯電話機の裏表逆差し防止のために識別シールを貼り付ける。



識別ラベル

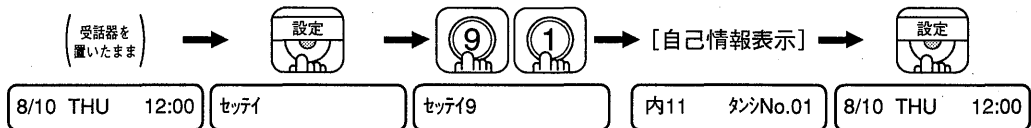
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	◀ 接続ユニット
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	◀ 専用電話機
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	◀ 携帯電話機
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	◀ 充電台

## 4-4-2 内線番号シールの貼り付け



### NOTE

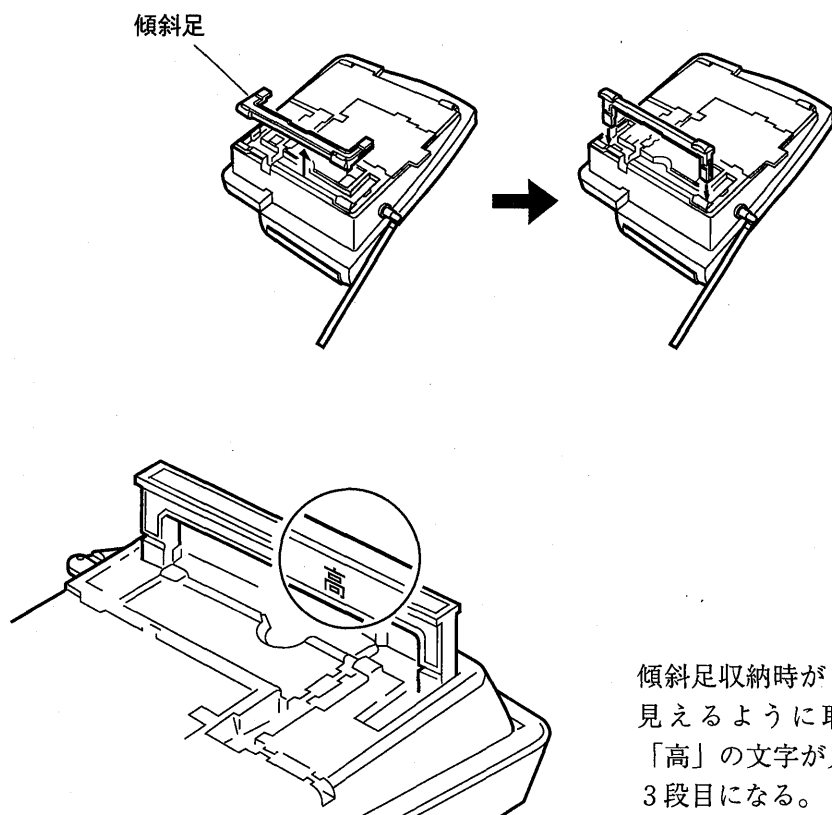
- 内線番号の確認は、ベアとなる接続ユニットの内線端子番号を確認し、システムデータで内線番号〈No.326〉を確認するか、または自己情報表示（専用電話機のみ）による確認を行なう。





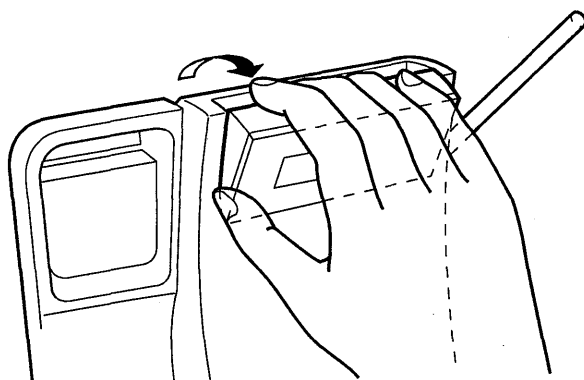
#### 4-4-3 電話機本体の角度調節

電話機底面にある傾斜足を取外し、付け替えることで、電話機の角度は3段階に調節できる。  
(チルトLCD)

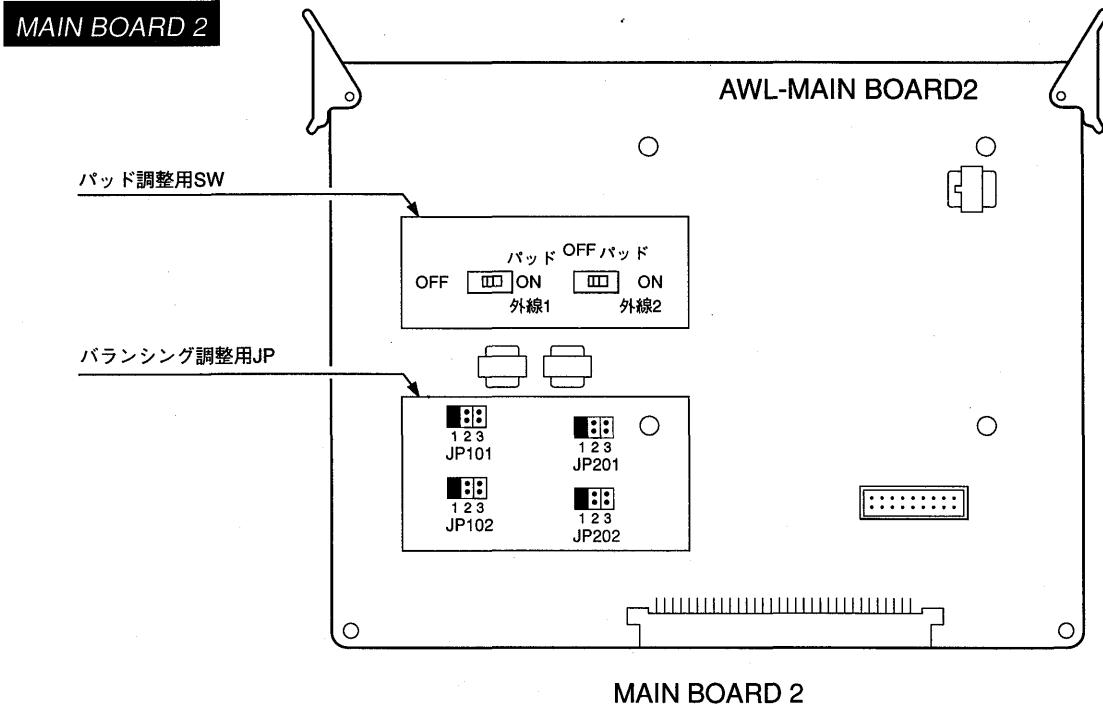


#### 4-4-4 ディスプレイの角度調節

ディスプレイの溝に指をひっかけ、持ち上げるようにすると、ディスプレイの角度は4段階に調節できる。  
(チルト機構)



#### 4-5 スイッチ概要及び各種調整



	JP/SW	用途	回路図	設定	出荷時設定									
P A D	SW101	外線1の3dB パッド	—	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>OFF</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>0dB</td> <td>■</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>3dB</td> <td>□</td> <td>■</td> </tr> </table> ■ : スイッチ 通常使用時: 0dB 通話音量が大きい時: 3dB		OFF	ON	0dB	■	□	3dB	□	■	OFF
		OFF			ON									
0dB	■	□												
3dB	□	■												
	SW201	外線2の3dB パッド			OFF									
バ ラ ン シ ン グ	JP101	外線1のバラ ンシングネット ワーク調整時 切替用		通常 JPXXX <table border="1"> <tr> <td>■</td> <td>:</td> <td>:</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </table> ●ジャンププラグ 「1」を「2」または「3」にセッ トする	■	:	:	1	2	3	1			
	■	:			:									
	1	2			3									
	JP102	外線1のバラ ンシングネット ワーク調整時 切替用					1							
JP201	外線2のバラ ンシングネット ワーク調整時 切替用			1										
JP202	外線2のバラ ンシングネット ワーク調整時 切替用			1										

#### 調整方法

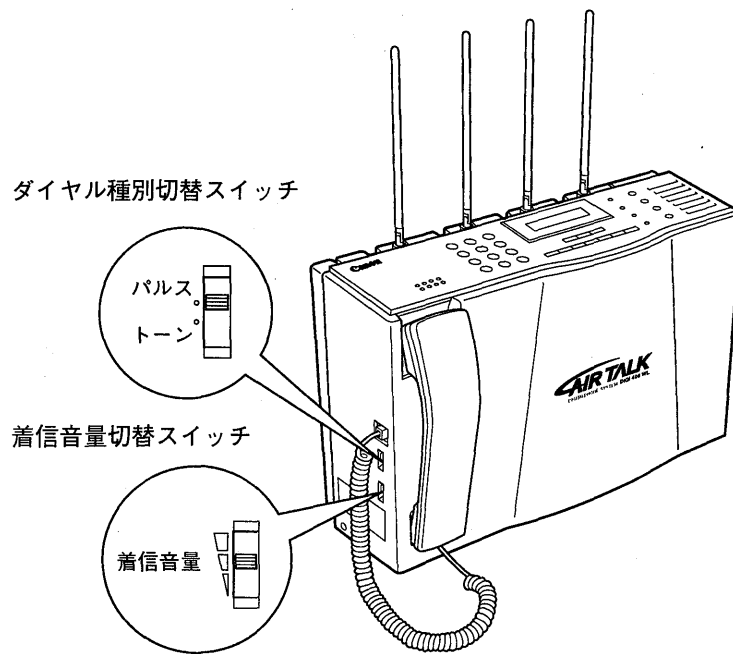
マスター電話機（主装置）の設置場所が電話局から近い等の理由により、外線通話中の送受話音量、または側音（受話への送話の回り込み）が大きい場合は、バラシングネットワークのジャンププラグを差し換え、それぞれのレベルでパッドSWのON/OFFを行なう。調整後は、実際に任意の無線電話機から外線通話を行ない一番良いと思われる設定に従う。

#### 注意

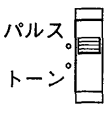

- バラシングネットワークで外線ごとに存在する2つのジャンパーは常に同じレベルに差し換えること。

設置

**SLTC UNIT**



SLTC UNIT

SW	用途	設定	出荷時設定
SW1	停電時に使用する外線1のダイヤル方式切替用	<p>パルス トーン</p> 	パルス
SW2	着信音量切替用	<p>着信音量</p> 	中

**NOTE**

- SW1のダイヤル方式は、停電中に機能する。
- 通電中、停電中に関係なくマスター電話機の着信音量は、SW2の着信音量切替に従う。

## 5. パワーオン

### 5-1 電源をONする前に

#### 5-1-1 AC電源に関する注意

- (1) ACコードは必ず付属のものを使用すること。
- (2) AC100±10V 50/60Hz以外の電源コンセントに接続しないこと。
- (3) ACコードはエアコン、工作機械、OA機器と共用する電源コンセントに接続しないこと。
- (4) ACコードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったりしないこと。
- (5) ACコードを抜く場合は、コードを引っ張らないこと。

#### 5-1-2 初期立ち上げ時の注意

- (1) 電源投入の前に、必ずマスター電話機（主装置）が正しく設置されていることを確認すること。
- (2) 誤動作防止のために初期化を行なうこと。（→Page33、34）
- (3) サービスマンモード1～3を実行すること。（→Page36、48、51）

- 1：システム診断：外線、内線、SLT、ドアホン、及び拡声装置を診断する。
- 2：環境モニタ：無線電話機に対する疑似着信動作により設置場所の良否を確認する。
- 3：課金データ転送：料金表示機能、料金集計機能、簡易LCR機能を利用するために課金センターから課金情報をダウン・ロードする。

- (4) データ設定で利用できる機能に必要な設定の操作方法は、別紙の「サービスデータシートの手引き」に従う。
- (5) 日時合わせの登録は、マスター電話機（主装置）の操作パネル上で行なう。（→Page30）
- (6) 全ての設置、診断、データ設定が完了したあと各無線電話機の外線ボタン1～4を順に押下し外線1～4が捕捉できることを確認する。捕捉できない外線ボタンがある場合は、外線ボタン割り付けを行うか、またはユーザデータ初期化を行なうこと。但し、収容していない外線を除く。（→Page31、34）

#### 5-1-3 外線増設による立ち上げ時の注意

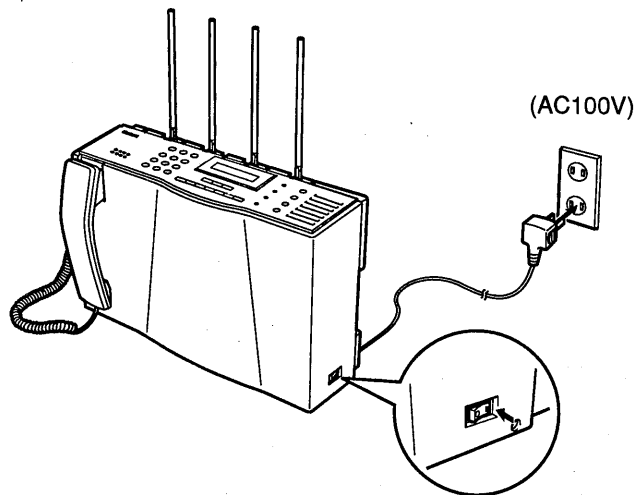
- (1) 無線電話機の外線3、4は自動的に割り付けされない。
- (2) マスター電話機の電源投入後、各無線電話機で発信操作を行った後、外線ボタン割り付けを行うこと。（→Page31）

#### 5-1-4 電源投入後の注意

- (1) 誤動作防止のため、運用中に接続ユニットの取り外し、または入れ替えをしないこと。
- (2) 運用中に無線電話機の電源をOFFした場合は、電源をONしたあと一度発信状態にすること。
- (3) 無線電話機に無線障害のエラーコードが表示される場合は、「エラー表示」を参照し、それぞれの対策を行うこと。（→Page54～）

## 5-2 電源投入

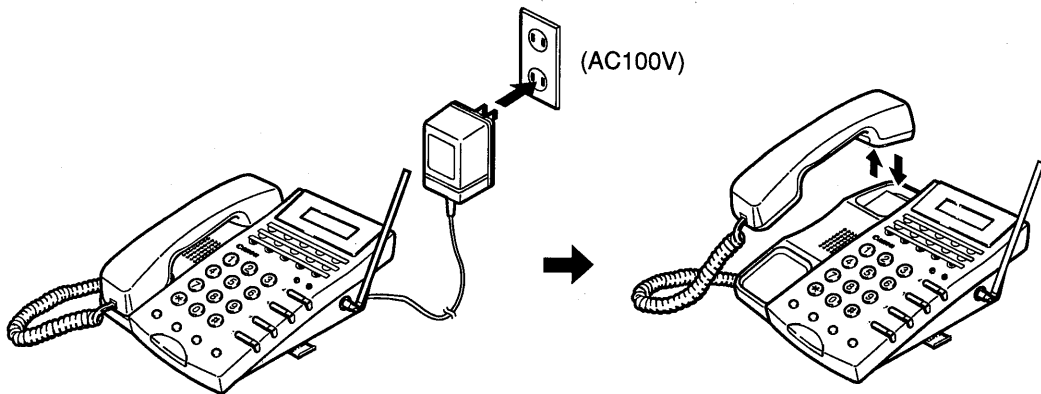
### マスター電話機 (主装置)



#### 注意

- 誤動作防止のために初期の立ち上げ時は、イニシャルスタートを行なうこと。  
(→Page33)

### 専用電話機

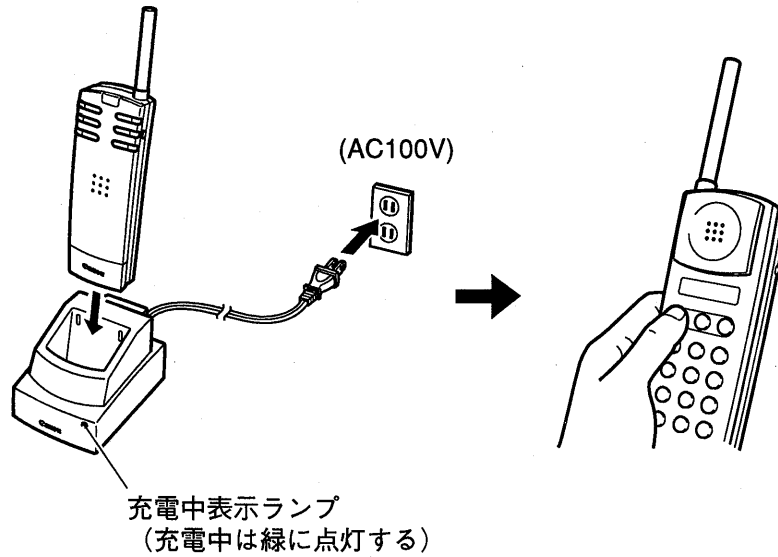


#### NOTE

- 電源投入後は、マスター電話機 (主装置) から日時合わせや外線収容情報等をダウン・ロードするために専用電話機を発信状態にすること。
- 専用電話機は、電源投入直後にEEPROMのチェック・サムとID (呼出符号) 番号が正常に登録されていることの確認を自動的に行い、不具合が発生した場合はディスプレイに通知 (E20またはE21表示) する。(→Page54)

#### 注意

- 誤動作防止のために初期の立ち上げ時は、ユーザデータ初期化を行なうこと。  
(→Page34)



NOTE

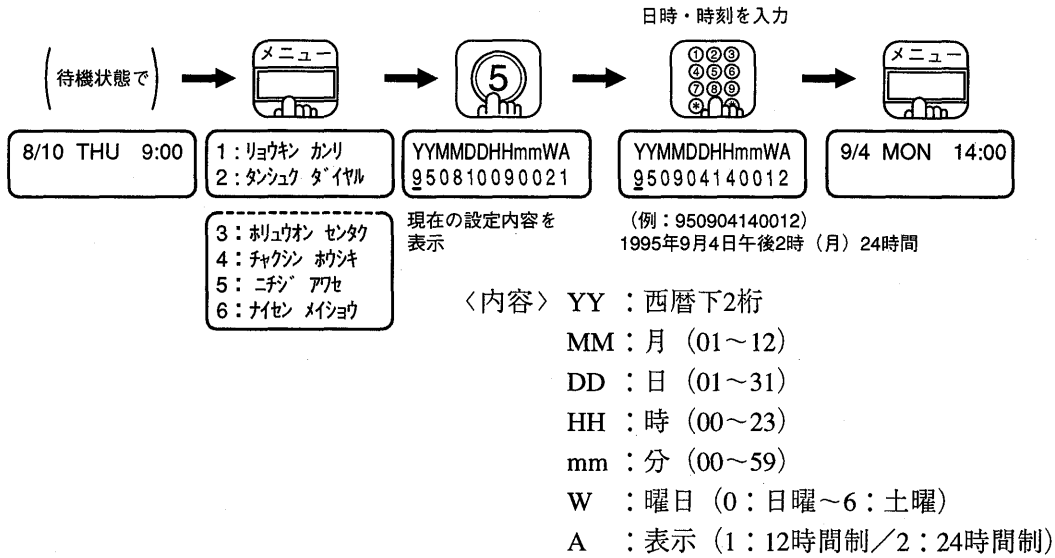
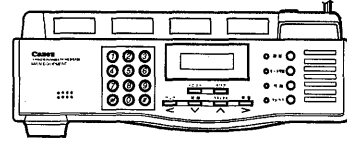
- 移動電話機はバッテリーで動作することから、初めて使用する場合は約10時間の充電が必要である。
- 電源投入後は、マスター電話機（主装置）から外線収容情報等をダウン・ロードするために移動電話機を発信状態にすること。
- 移動電話機は、電源投入直後にEEPROMのチェック・サムとID（呼出符号）番号が正常に登録されていることの確認を自動的に行い、不具合が発生した場合はディスプレイに通知（E20またはE21表示）する。（→Page56）

注意

- 誤動作防止のために初期の立ち上げ時は、ユーザデータ初期化を行なうこと。（→Page34）
- 電池を取り外した状態で充電台に移動電話機をのせないこと。

## 日時合わせ

年月日、時刻、及び24/12時間制表示の登録を行う。



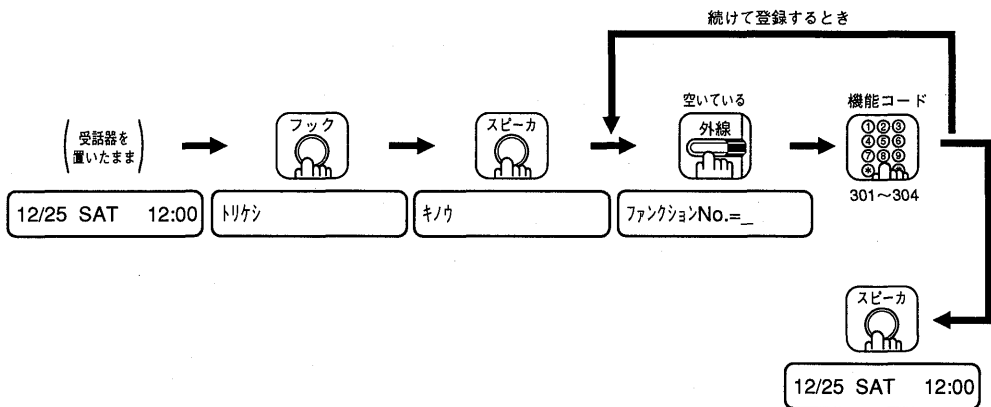
### NOTE

- 時刻の設定は12時間表示/24時間表示に関係なく24時間制で入力すること。
- 登録中は、(※)または(⊕) ボタン押下によりカーソルを左右に移動できる。
- 内容表示後、1分以内に次の操作がない場合は、待機状態に戻る。この時、日時は更新されない。
- 日時合わせの登録は、[<] ボタン、または [メニュー] ボタンの押下により登録を更新し、ボタンを押下した時点から時計をカウントし始める。
- 専用電話機の日時表示は、発着信毎に無線を介して設定される。

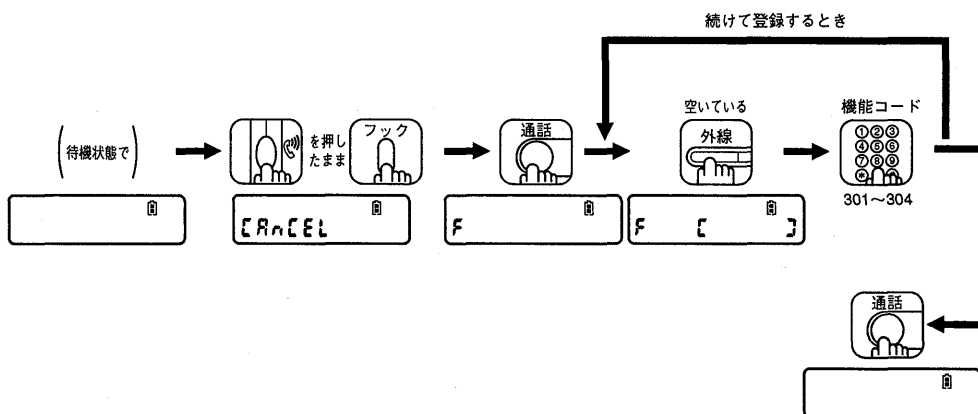
## 外線ボタン割り付け

外線は電話機ごとの任意の外線ボタンに割り付けられる。但し、新規に外線を増設した場合は、未使用の外線ボタンに外線コードを割り付ける必要がある。

### 専用電話機

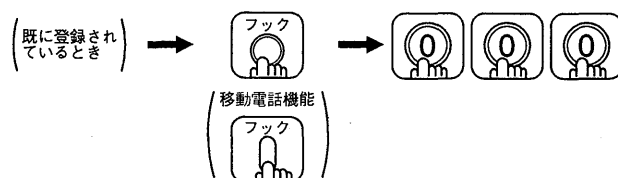


### 携帯電話機



#### NOTE

- 既に他の外線ボタンが割り付けてある場合は、機能を消去してから新規に設定すること。

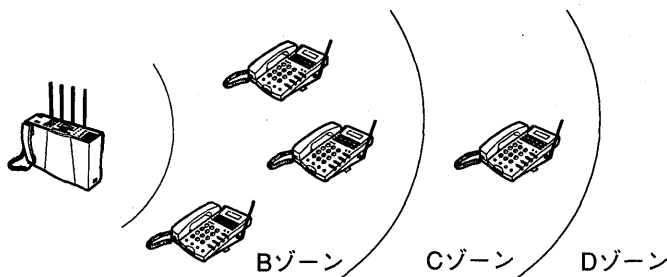
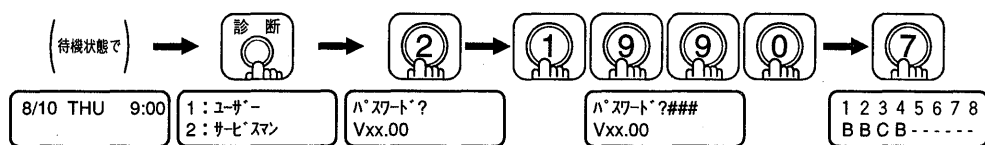
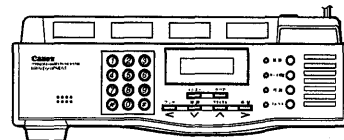




## 無線電話機設置状況表示

無線電話機の電波環境上の設置位置は、マスター電話機（主装置）が受信する電波の強さを一覧で表示する無線電話機設置状況表示で確認することができる。

尚、マスター電話機を中心とした設置禁止区域の半径は、システム内でアッテネータ機能が動作している（Cゾーンにある）電話機の台数により異なる。



表示	内 容
「B」	接続ユニットが電話機から受信できる電波が強い。
「C」	接続ユニットが電話機から受信できる電波が弱い。
「D」	接続ユニットが電話機から受信できる電波が極端に弱い。
「O」	接続ユニットが電話機からの電波を一度も受信してないため設置位置を確認できない。
「-」	接続ユニットが未接続である。

### 設置禁止区域の条件

Cゾーンの設置台数	設置禁止区域（半径）
5台以下	約1m
6台以上	約2.5m

### NOTE

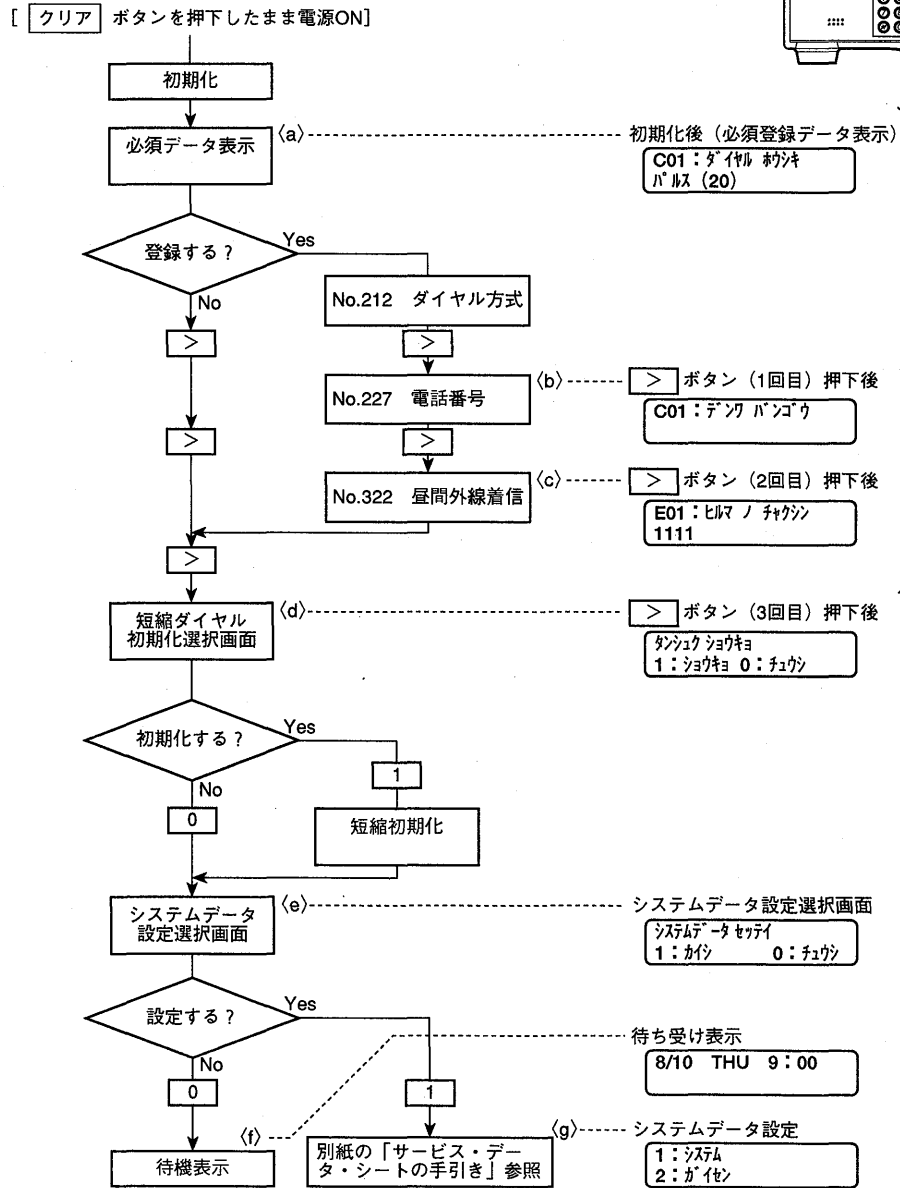
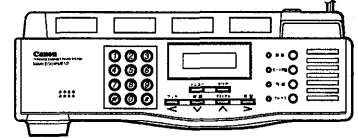
- 「無線電話機設置状況表示」、「アッテネータの使用」の詳細は、別紙のサービスマニュアルを参照すること。
- 無線電話機設置状況表示する無線電話機は発信状態にすること。

## 6. 初期化

### 6-1 イニシャルスタート

マスター電話機（主装置）に記憶されているシステムデータ、メニューデータ（短縮ダイヤル、通信エラー記録を除く）を初期化する。短縮ダイヤルの初期化は、イニシャルスタート時、短縮消去を明示的に選択すること。

本操作は、データ設定の前にマスター電話機の操作パネル上で行なう。



初  
期  
化

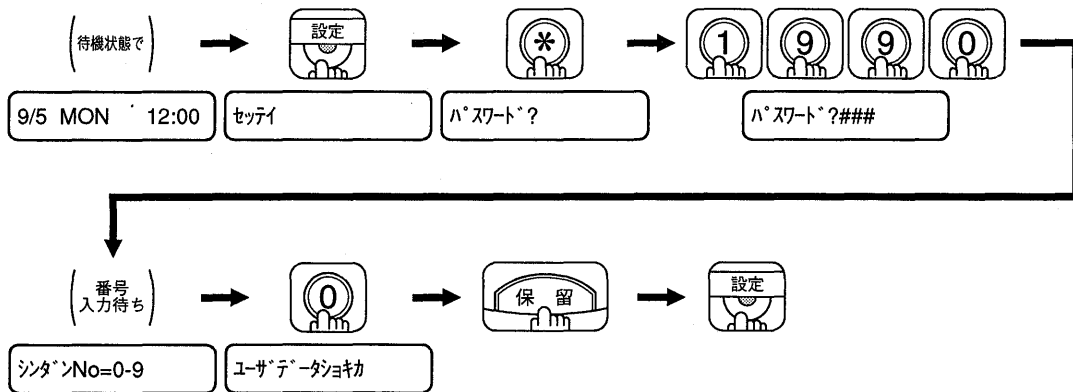
#### NOTE

- 必須データ登録方法の詳細は、別紙の「サービス・データ・シートの手引き」に示すNo.212、227、322のシステムデータ一覧を参照すること。

## 6-2 ユーザデータ初期化

無線電話機に記憶されている個別データ、及び機能ボタン、外線ボタン、ワンタッチダイヤルのボタンデータ（障害記録を含む）を初期化する。

### 専用電話機



### 携帯電話機

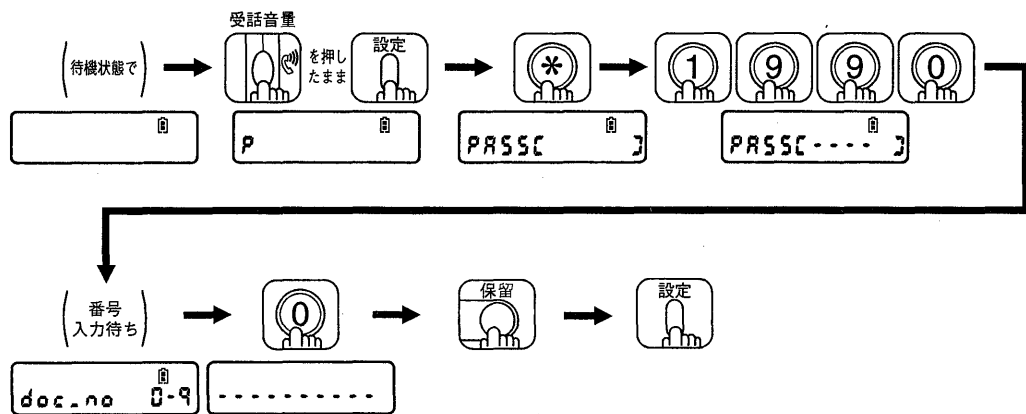


表6-1 初期値一覧

機能名	項目	専用電話機	移動電話機
外線ボタン	外線ボタン1~4	F301~F304	F301~F304
ワンタッチボタン	外線ボタン5~6	—	未登録
	ワンタッチボタン01~10	未登録	—
機能ボタン	機能ボタン1	F100 (設定)	—
	機能ボタン2	F101 (代理応答)	—
	機能ボタン3	F102 (内線)	—
	機能ボタン4	F103 (ファクス)	—
	機能ボタン5	F104 (マイク)	—
個別データ (設定特番)	LCD濃度調整	3	
	着信音量	3	3
	クイック発信	なし	—
	キータッチオン	あり	あり
	ヘッドセット/ハンドセット	ハンドセット	—
	オフフック発信	外線	外線
	受話音量	2	2
	スピーカ受話音量	0	—
	ホットライン先内線	11	11
	オフフック有効/無効	—	有効

※データ設定の詳細は、別紙の「サービス・データ・シートの手引き」を参照すること。

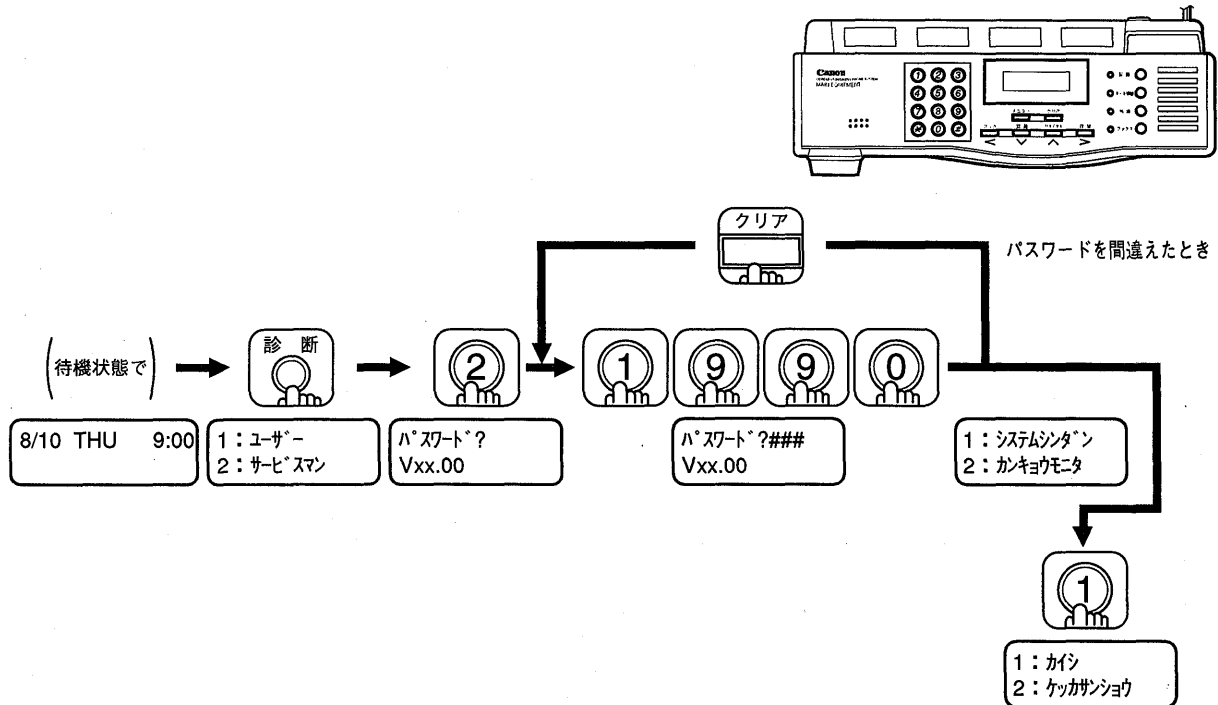
## 7. システム診断

### 7-1 システム診断の概要

#### 7-1-1 診断方法

初期の設置時、または外線、内線、SLT、ドアホンの各部に障害が発生した場合の動作確認、及び障害箇所の特定を行なう場合に本診断を行なう。

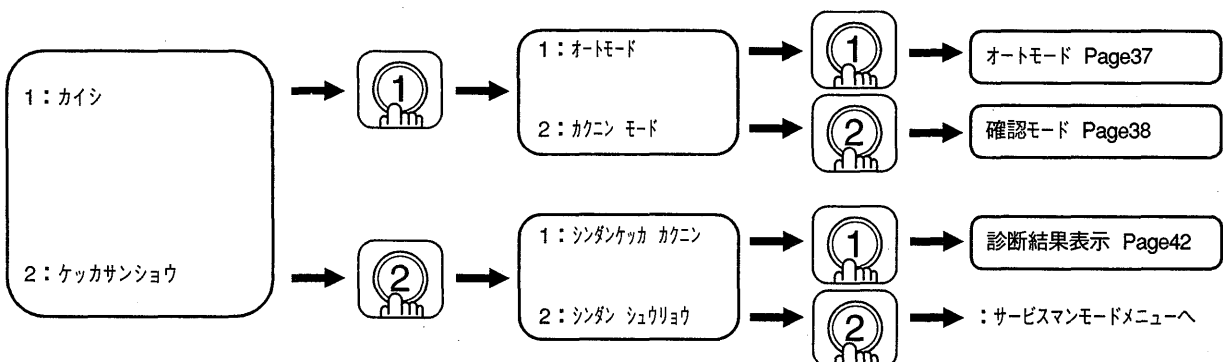
診断の方法として、自動的に全ての項目を順次診断するオートモードと外線、内線、SLT、ドアホンの各部で診断結果を順次確認しながら診断する確認モードがある。



#### NOTE

- 前段の表示に戻すときは、 ボタンを押下する。
- 診断中は、内線診断を除き ボタンを押下した時点で診断を終了する。
- システム診断を終了する場合は、 ボタンを押下する。

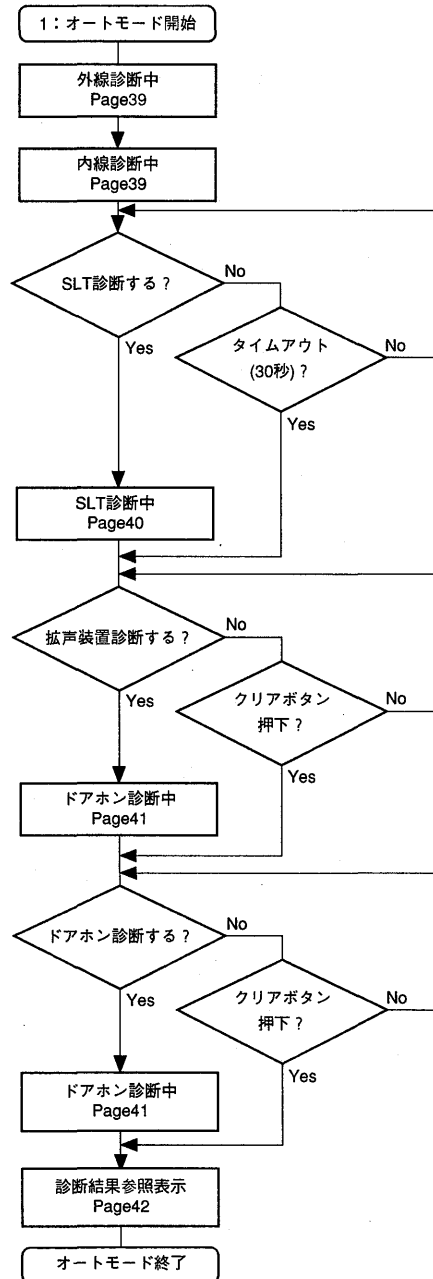
#### 7-1-2 診断メニュー



## 7-2 オートモード

システムの外線、内線、SLT、ドアホン（拡声装置を含む）の全ての項目を自動的に順次診断し、全項目の診断終了後、診断結果を表示する。

オートモード動作フローを下記に示す。各部の診断動作、及び診断結果表示の詳細は、Page39～41、42～47を参照すること。



### NOTE

- ドアホンユニットが実装されていない場合は、ドアホン診断を除く。

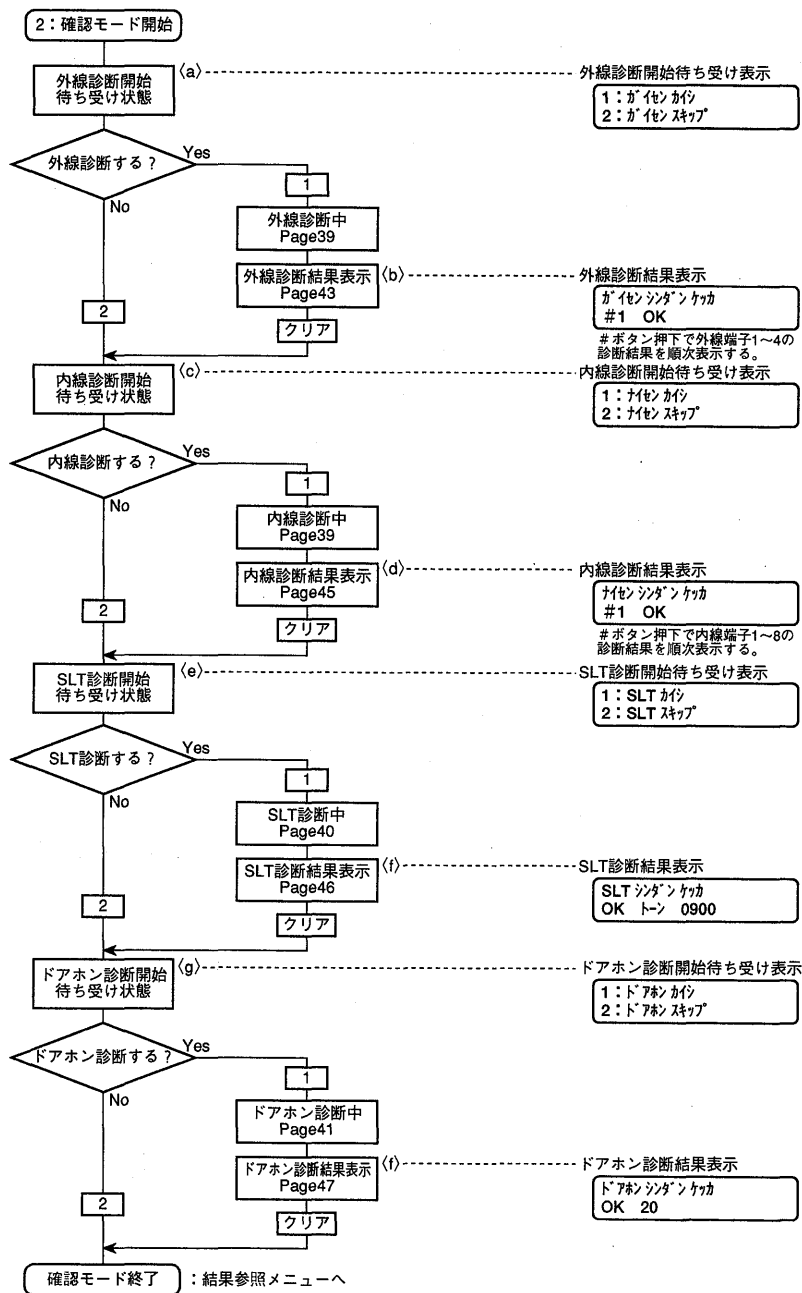
### 注意

- 診断中は、診断用の操作を除き外線、内線、SLT、ドアホン、拡声装置を操作しないこと。
- SLTが未接続の場合は、あらかじめ電話機種別<No.511>を“未実装”に変更すること。
- 着信方式がDIDの外線がある場合は、診断開始前に着信方式を通常に戻すこと。

### 7-3 確認モード

システムの外線、内線、SLT、ドアホン（拡声装置を含む）各部の診断項目を選択し、診断結果を個別に確認することができる。

確認モード動作フローを下記に示す。各部の診断動作、及び診断結果の詳細は、Page34~41、42~47を参照すること。



#### NOTE

- 診断結果表示中に<左>ボタンを押下すると結果参照メニューとなる。

#### 注意

- 診断中は、診断用の操作を除き外線、内線、SLT、ドアホン、拡声装置を使用しないこと。
- SLTが未接続の場合は、あらかじめ電話機種別<No.511>を“未実装”に変更すること。
- 着信方式がDIDの外線がある場合は、診断開始前に着信方式を通常に戻すこと。

### 外線診断中の表示

Step	LCD表示	Step	LCD表示
1	ガイセン #n ハッジン	4	ガイセン #n→#m チャクシチュウ
2	ガイセン #n→#m ダイヤル 0123456789	5	ガイセン #n→#m ツウワチュウ
3	ガイセン #n→#m ヨビダシチュウ	6	ガイセン #n→#m セツダンチュウ

#### NOTE

- Step1～6は、外線の組み合わせ回数（最高4回）繰り返し表示する。
- 給電、または発信音のいずれかを検出できない外線端子の外線種別〈No.201〉は、自動的に空白（未実装）に変更する。
- オートモードで全ての外線診断が終了した場合は、内線診断を表示する。
- 確認モードで全ての外線診断が終了した場合は、外線診断結果を表示する。（→Page43、44）

#### 注意

- 着信方式がDIDの外線がある場合は、診断開始前に着信方式を通常に戻すこと。

### 内線診断中の表示

Step	LCD表示	内 容
1	ナイセン #n ソウセツカード シタン	2/4内線増設カードの実装の有無、及びループバックテストを確認する。 本表示は、内線5以降の診断開始時に表示する。
2	ナイセン #n セツゾクウチ シタン	接続ユニット実装の有無、及びループバックテストを確認する。
3	ナイセン #n デンワキ シタン	疑似内線着信動作を3回実行し、無線電話機の電波環境を含む着信動作を診断する。

#### NOTE





- Step1～3は、無線電話機セットの実装数（最高8回）を繰り返し表示する。
- オートモードで全ての内線診断が終了した場合は、SLT診断を表示する。
- 確認モードで全ての内線診断が終了した場合は、内線診断結果を表示する。（→Page45）

#### 注意

- 内線診断中は、正しい診断結果を得るために無線電話機を操作しないこと。
- 内線診断開始後は、診断終了まで中断することはできない。
- マスター電話機（主装置）の電源OFFで強制的に終了した場合は、全ての無線電話機の電源を一旦OFF/ONしてから再度電源をONすること。



SLT診断中の表示

Step	LCD表示	内 容	操 作
1	SLT シタ <sup>ン</sup> XXX オ <sup>フ</sup> フック シテ <sup>ク</sup> ダ <sup>サ</sup> イ	SLTのオフフック検出を確認する。	
2	SLT シタ <sup>ン</sup> XXX 0123456789	SLTのダイヤル検出を確認する。	
	SLT シタ <sup>ン</sup> XXX ----456789 ↓ SLT シタ <sup>ン</sup> XXX -----OK	正常に受信されたダイヤルは、「-」表示に置換し、全てのダイヤルを正常に受信した場合は、「OK」表示する。	
3	SLT シタ <sup>ン</sup> フック <sup>ン</sup> グ シテ <sup>ク</sup> ダ <sup>サ</sup> イ	SLTのフッキング検出を確認する。	
	SLT シタ <sup>ン</sup> YYY フック <sup>ン</sup> グ OK	SLTのフッキングを正常に検出した場合は、「OK」表示する。	
	SLT シタ <sup>ン</sup> YYY フック <sup>ン</sup> グ NG	SLTのフッキングを正常に検出できない場合は、「NG」表示する。 この場合、主装置側はフッキング送出時間(最大)〈No.531〉を“100msec”長い値に自動変更し、約3秒後に再度、「フッキング シテクダサイ」表示する。 詳細は、別紙の「サービスマニュアル」を参照すること。	
4	SLT シタ <sup>ン</sup> ジ <sup>ュ</sup> フキ <sup>ヲ</sup> オ <sup>イ</sup> テ <sup>ク</sup> ダ <sup>サ</sup> イ	SLTのオンフック検出を確認する。	

NOTE

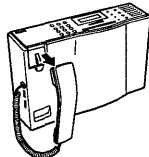

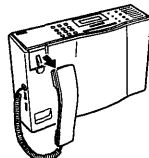

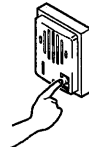
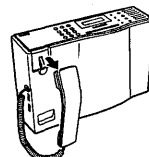
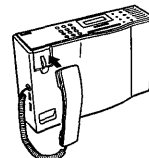
- ×××表示は、現在のSLTのダイヤル方式〈No.512〉の設定に従う。
- オートモードで全てのSLT診断が終了した場合は、ドアホン診断を表示する。
- 確認モードで全てのSLT診断が終了した場合は、SLT診断結果を表示する。(→Page46)
- フッキングが正常に検出できない場合は、フッキング時間が長いために切断と認識されたと考えるため、フッキング検出時間(最大)〈No.531〉を“100msec”長い値に自動設定し、約3秒後に再度、フッキングを待つ旨が表示される。  
この操作は、フッキング検出時間(最大)が“1500msec”に自動設定されるまで繰り返されるが、“1500msec”でもフッキングを正常に認識できない場合は、診断を終了する。  
この時、フッキング検出時間(最大)の設定値は、工場出荷値に戻る。
- フッキングが正常に認識できない原因がフッキング時間が短いことにある場合は、フッキングを待つ旨の表示状態でクリアボタンを押下することにより、フッキング検出時間(最大)の設定値を“300msec”まで下げることができる。この時、下記の表示となり約3秒でフッキングを待つ旨の表示に戻る。

注意

- SLT診断の開始時にマスター電話機、またはSLTの受話器が外れている場合は、右記の表示状態となり受話器を戻すまで診断を中断する。1分以内に受話器を戻さない場合は、SLT診断を終了する。

SLTシタ<sup>ン</sup>  
オ<sup>フ</sup>フック<sup>マ</sup>チ マス<sup>タ</sup>ー

ドアホン・拡声装置診断中の表示

Step	LCD表示	内 容	操 作
1	ドアホン シンタン ループバック	ドアホンユニットの実装の有無、及びループバックテストを確認する。	
2	カクセイウチ シンタン オフック シテクダサイ	マスター電話機のオフック検出を確認し、構内放送を開始する。 拡声装置を実装していない場合は、クリアボタンを押下する。 (→Step4へ)	
3	カクセイウチ シンタン コウナイホウノウチュウ	マスター電話機から構内放送テストを行ない音声が出力できることを確認する。 正常であると判断する場合は、そのままマスター電話機をオンフックし、異常があると判断する場合はクリアボタンを押下したあとオンフックする。	
4	ドアホン シンタン オフック シテクダサイ	マスター電話機のオフック検出を確認し、ドアホン呼出を開始する。 ドアホンを実装していない場合は、クリアボタンを押下し、診断を終了する。	
5	ドアホン シンタン ツウワチュウ	マスター電話機からドアホンテストを行ない音声が出力できることを確認する。 正常であると判断する場合は、そのままマスター電話機をオンフックし、異常があると判断する場合は、クリアボタンを押下したあとオンフックする。	
6	ドアホン シンタン ドアホンヲ オシテクダサイ	ドアホンから呼出ボタンを押下し、ドアホン着信検出を確認し、ドアホン着信を開始する。	
7	ドアホン シンタン オフック シテクダサイ	ドアホン着信検出から20秒以内にマスター電話機のオフック検出を確認し、ドアホン通話を開始する。	
8	ドアホン シンタン ツウワチュウ	ドアホンからドアホンテストを行ない音声が出力できることを確認し、オンフックする。	
9	ドアホン シンタン オフック シテクダサイ	Step8の状態から1分以内にオンフックを検出できない場合は、30秒間「オンフック シテクダサイ」表示する。	

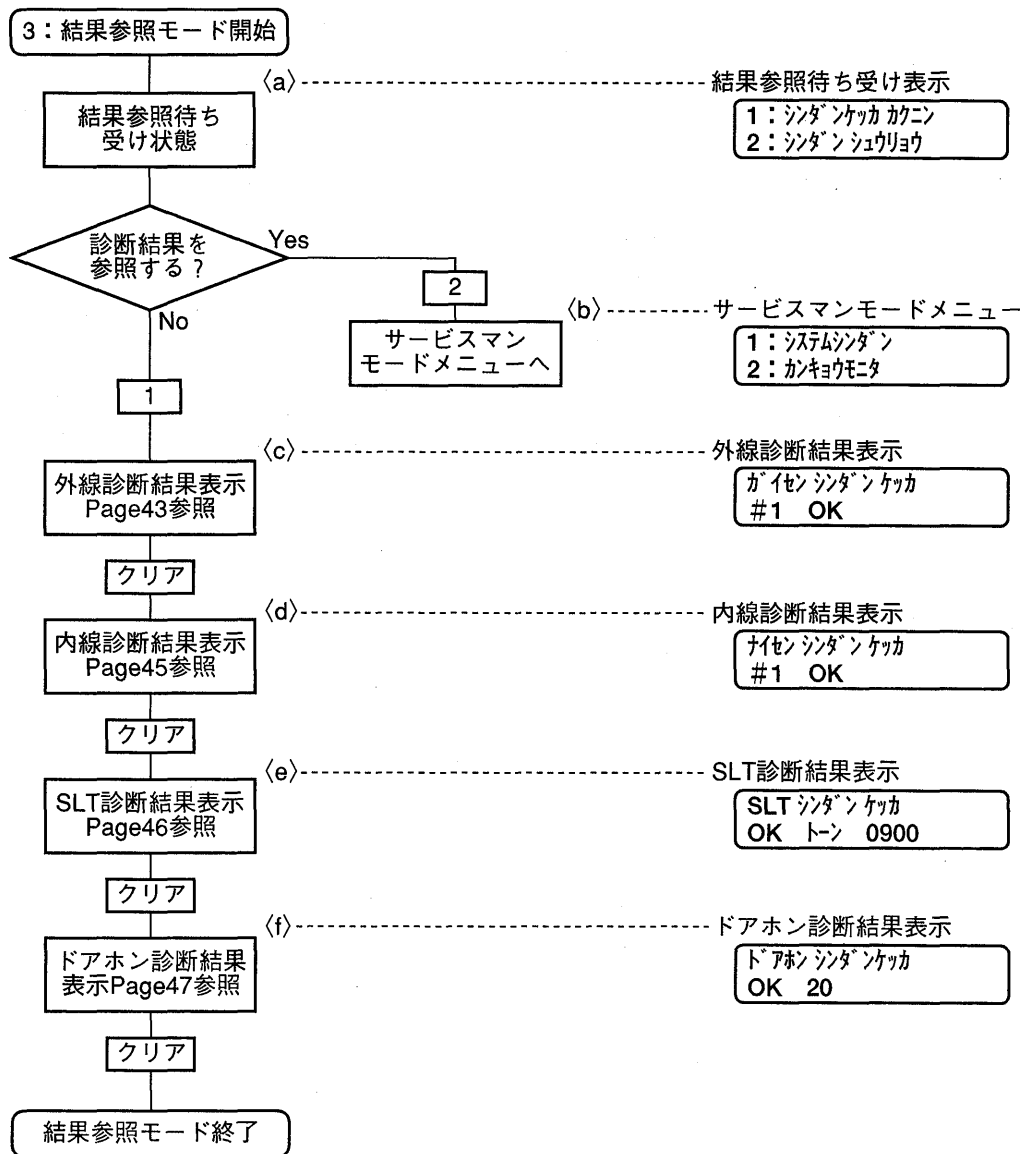
NOTE

- オートモードで全てのドアホン診断が終了した場合は、結果参照選択画面を表示する。
- 確認モードで全てのドアホン診断が終了した場合は、ドアホン診断結果を表示する。(→Page47)

## 7-4 診断結果表示

システム診断によるオートモード終了後、または確認モードによる各部の診断終了後に外線、内線、SLT、ドアホン診断結果を順次表示する。診断結果は、次の診断が実行されるまでのあいだ記憶され、システム診断メニューから「2:ケッカシヨウ」を選択することにより前回の診断結果を逐次確認することができる。

結果参照モードフローを下記に示す。



### NOTE

- 外線、内線診断結果表示中は、**Ⓜ** ボタンの押下により結果表示する外線端子番号を更新する。
- 診断結果表示中は、**クリア** ボタンの押下で次の診断結果表示に移行する。

外線診断結果

がイセシシダン ケッカ  
#n XXXXX

上段に外線診断結果である旨を表示する。  
下段に外線端子番号（下1桁）、診断コードでを表示する。

NOTE

- ⊕ ボタンの押下により結果表示する外線端子番号を更新する。
- クリア ボタンの押下で内線診断または内線診断結果表示に移行する。

診断コード	原因と対策
がイセシシダン ケッカ #n OK	〈原因〉 全ての外線診断項目が正常に終了した。
がイセシシダン ケッカ #n ゴウゼツパン	〈原因〉 2外線増設カードが実装されていない。 〈対策〉 2外線増設カードが始めから実装されていない場合は、OKとする。 2外線増設カードが実装されている場合は、接続を確認する。
がイセシシダン ケッカ #n スキップ	〈原因〉 使用中のため診断ができない。 〈対策〉 自動捕捉可能な外線が1回線しかない、または同じ外線種別の外線がない場合は、OKとする。使用中の外線による通話が終了した後、再度、外線診断を行なう。
がイセシシダン ケッカ #n E01	〈原因〉 公衆網側からの給電(42~53V)を検出できない。(外線種別<No.201>を“未実装”に自動変更) 〈対策〉 8芯ラインコードの配線を確認する。 8芯モジュラーローゼット内部の配線を確認する。
がイセシシダン ケッカ #n E02	〈原因〉 公衆網側からの発信音(400Hzの連続信号)を検出できない。 〈対策〉 公衆網側の調査を行なう。
がイセシシダン ケッカ #n E03	〈原因〉 発信側の外線から16桁のトーン信号を送信したが、着信側の外線で正常に受信できない。 〈対策〉 公衆網側の調査を行なう。
がイセシシダン ケッカ #n E04	〈原因〉 着信側の外線から16桁のトーン信号を送信したが、発信側の外線で正常に受信できない。 〈対策〉 公衆網側の調査を行なう。
がイセシシダン ケッカ #n E1n	〈原因〉 着信予定外線(外線端子番号n)で着信信号(呼出音:10~27Hzの断続信号)を検出できない。 〈対策〉 着信予定外線nの電話番号<No.227>を確認する。
がイセシシダン ケッカ #n E2n	〈原因〉 外線端子番号nの電話番号が登録されていない。 〈対策〉 外線端子nの電話番号<No.227>を登録する。

診断コード	原因と対策
ガイセン シンダン ケッカ #n W01	<原因> 応答リバースを検出できない。 <対応> 応答リバース<No.213>を“ナシ”に変更する。 公衆網側が応答リバースありの場合は、MAIN BOARD 2を交換する。
ガイセン シンダン ケッカ #n W02	<原因> 切断リバースを検出できない。 <対応> 切断リバース<No.214>を“ナシ”に変更する。 公衆網側が切断リバースありの場合は、MAIN BOARD 2を交換する。
ガイセン シンダン ケッカ #n W03	<原因> 発信可否<No.216>の設定が“不可”に設定されている。 <対応> 発信可否<No.216>を“不可”に設定してある場合は、OKとする。
ガイセン シンダン ケッカ #n W04	<原因> 公衆網側からの給電(42~53V)を検出したが、外線種別<No.211>が “未実装”に設定されている。 <対応> 外線種別<No.211>が“未実装”に設定されていることを確認し、設定 値を変更する。

## 内線診断結果

ナイセン シンダン ケッカ  
#X XXXXX

上段に内線診断結果である旨を表示する。  
下段に内線端子番号（下1桁）、診断コードを表示する。

### NOTE

- **Ⓢ** ボタンの押下により結果表示する内線端子番号を更新する。
- **クリア** ボタンの押下でSLT診断またはSLT診断結果表示に移行する。

診断コード	原因と対策
ナイセン シンダン ケッカ #n OK	〈原因〉 全ての内線診断項目が正常に終了した。
ナイセン シンダン ケッカ #n セツゾクカード ナン	〈原因〉 内線増設カードが実装されていない。 〈対策〉 内線増設カードが始めから実装されていない場合は、OKとする。 内線増設カードが実装されている場合は、接続を確認する。
ナイセン シンダン ケッカ #n ソウセツソウチ ナン	〈原因〉 接続ユニットが実装されていない。 〈対策〉 接続ユニットが始めから実装されていない、または有線電話機が接続されている場合は、OKとする。 接続ユニットの接続、または配線を確認する。
ナイセン シンダン ケッカ #n スキップ	〈原因〉 接続ユニットが使用中のため診断ができない。 〈対策〉 電話機(接続ユニットも含む)の使用が終了した後、再度、内線診断を行なう。
ナイセン シンダン ケッカ #n E01	〈原因〉 接続ユニットとの通電エラーまたはループバックエラー発生 〈対策〉 接続ユニットの接続、または配線を確認する。または、接続ユニットを交換する。
ナイセン シンダン ケッカ #n E02	〈原因〉 内線増設カードとの通電エラー発生 〈対策〉 内線増設カードを交換する。
ナイセン シンダン ケッカ #n E03: 00 00 00	〈原因〉 疑似着信処理中のエラー発生 3回の着信テスト中に1回でも無線障害が発生した場合に表示する。 〈対策〉 下記のエラーコードを除く無線障害の詳細は、Page62を参照し、それぞれの対策を行う。 00: 正常 83: 着信停止信号送信時に無線障害が発生したため、着信テストを停止した。

## SLT診断結果

SLT シンタ ン ケッカ  
XXXXXXX

上段にSLT診断結果である旨を表示する。  
下段に診断メッセージを表示する。

### NOTE

- **クリア** ボタンの押下でドアホン診断またはドアホン診断結果表示に移行する。

診断メッセージ	原因と対策
SLT シンタ ン ケッカ OK トン 0900	〈原因〉 全てのSLT診断項目が正常に終了した。
SLT シンタ ン ケッカ スキップ	〈原因〉 SLTが使用中のため診断ができない。 〈対策〉 SLTの使用を終了した後、再度、SLT診断を行なう。
SLT シンタ ン ケッカ テストスタート エラー	〈原因〉 マスター電話機が使用中、または、SLTが所定時間内に受話器を外さないために診断を開始できない。 〈対策〉 マスター電話機の使用を終了した後、再度、SLT診断を行なう。 SLTを接続していない場合は、電話機種別〈No.501〉を“未実装”に変更する。
SLT シンタ ン ケッカ ダイヤル エラー	〈原因〉 SLTからの <b>ダイヤル</b> ボタン押下を所定時間内に受信できない。 〈対策〉 ダイヤル方式〈No.512〉とSLT本体のダイヤルモードスイッチを合わせる。または、MAIN BOARD2を交換すること。
SLT シンタ ン ケッカ フッキング タイムオーバー	〈原因〉 所定時間内にフッキングを正常に認識できない。 〈対策〉 フッキング検出時間〈No.531、532〉の設定値を見直し、再度、SLT診断を行なう。
SLT シンタ ン ケッカ フッキング エラー	〈原因〉 フッキング検出時間(最大)が1500msec以内でフッキングを正常に認識できない。 〈対策〉 フッキング検出時間(最大)再設定を“300msec”に変更した状態でフッキング操作をやり直す。 SLT本体の <b>フック</b> ボタン、または <b>キャッチ</b> ボタン等が正常であることを確認する。
SLT シンタ ン ケッカ オンフック エラー	〈原因〉 SLT診断の最後に受話器を戻したことが認識できない。 〈対策〉 再度、SLT診断を行ない同じ診断メッセージが表示された場合は、配線を確認し、SLT本体に異常がないことを確認する。
SLT シンタ ン ケッカ SLT ナシ	〈原因〉 電話機種別〈No.501〉が“未実装”に設定されている。 〈対策〉 増設等により、SLTが接続してある場合は、電話機種別〈No.501〉の設定値を変更する。

## ドアホン診断結果

ドアホン シンタ`ン ケッカ  
XXXXXXX

上段にドアホン診断結果である旨を表示する。  
下段に診断メッセージを表示する。

### NOTE

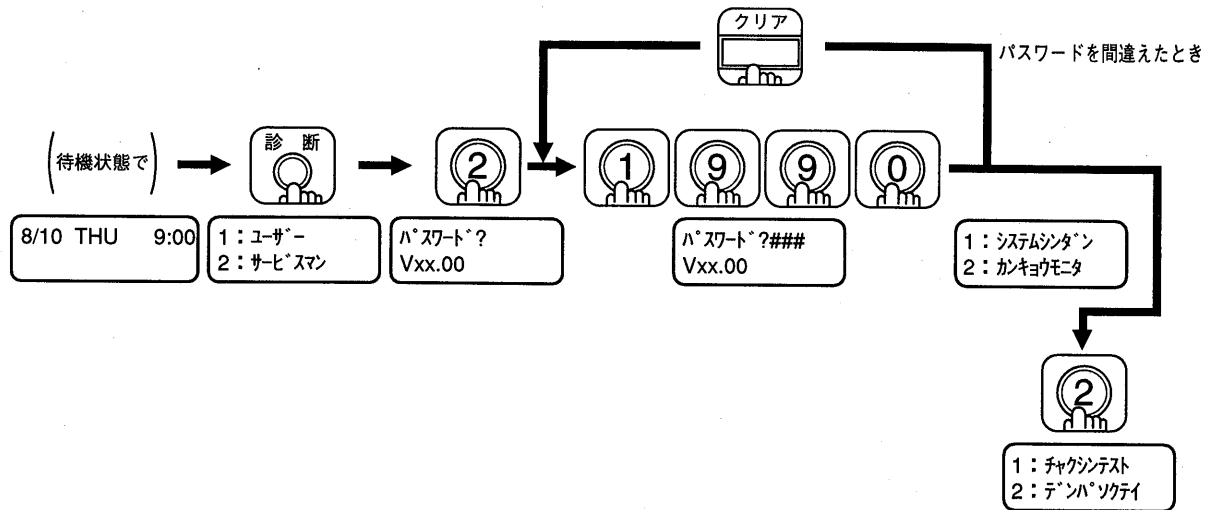
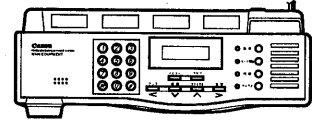
- **クリア** ボタンの押下で診断または診断結果表示を終了する。

診断メッセージ	原因と対策
ドアホン シンタ`ン ケッカ OK 20	<p>&lt;原因&gt; 全てのドアホン診断項目が正常に終了した。 (下段に着信応答有効時間を秒単位で表示する。)</p>
ドアホン シンタ`ン ケッカ スキップ	<p>&lt;原因&gt; ドアホン、または拡声装置を使用中のため診断ができない。 &lt;対策&gt; ドアホン、または拡声装置の使用を終了した後、再度、ドアホン診断を行なうこと。</p>
ドアホン シンタ`ン ケッカ ドアホンカード ナシ	<p>&lt;原因&gt; ドアホンユニットが実装されていない。 &lt;対策&gt; ドアホンユニットが始めから実装されていない場合は、OKとする。</p>
ドアホン シンタ`ン ケッカ ループバック エラー	<p>&lt;原因&gt; ドアホンユニットとの通電エラー発生。 &lt;対策&gt; ドアホン子機側の配線を取り外した後、再度、ドアホン診断を行ない本エラーが発生しない場合は、ドアホン子機の周辺雑音がひどいと考えられる為、配線、及び設置場所を見直すこと。 また、ドアホン子機を取り外した状態で本エラーが発生する場合は、ドアホンユニットを交換すること。</p>
ドアホン シンタ`ン ケッカ テストスタート エラー	<p>&lt;原因&gt; 拡声装置、またはドアホン診断開始時、マスター電話機の手話器を所定時間(1分)以内に外さないために診断を開始できない。 &lt;対策&gt; 再度、ドアホン診断を行なうこと。</p>
ドアホン シンタ`ン ケッカ カセイソウチ エラー	<p>&lt;原因&gt; 拡声装置による予告音、及び音声は正常に出力されない。 &lt;対策&gt; 本エラー表示は、診断者の聴覚による所が大きいが、再度ドアホン診断を行ない同じ結果である場合は、配線、拡声装置本体の音量調節、拡声装置が推奨品 (CS-191) であることの確認を行なうこと。</p>
ドアホン シンタ`ン ケッカ ドアホン ヨビダシ エラー	<p>&lt;原因&gt; マスター電話機とドアホン間の通話が正常にできない。 &lt;対策&gt; 本エラー表示は、診断者の聴覚による所が大きいが、再度ドアホン診断を行ない同じ結果である場合は、配線、ドアホンが推奨品であることの確認を行なうこと。 また、ドアホンユニット上のハードスイッチにより送受話レベル、バランス調整を行なうこと。</p>
ドアホン シンタ`ン ケッカ チャクシン ケンシュツ エラー	<p>&lt;原因&gt; ドアホン着信を所定時間内に検出できない。 &lt;対策&gt; ドアホンが推奨品であることを確認する。</p>
ドアホン シンタ`ン ケッカ チャクシンオウトウ エラー	<p>&lt;原因&gt; ドアホン着信鳴動中にマスター電話から応答できなかった。 &lt;対策&gt; ドアホン応答有効時間&lt;No.402&gt;の設定値を変更すること。</p>



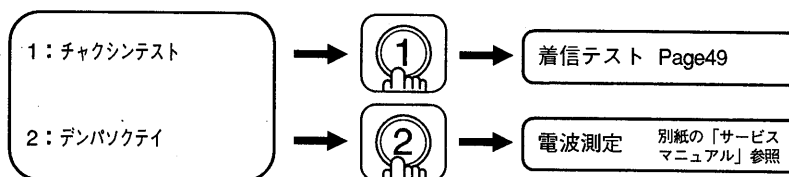
## 8. 環境モニタ【着信テスト】

環境モニタは、疑似着信動作、及び受信電界強度の測定により設置場所の電波状況を確認する場合に用いる。



### NOTE

- 前段の表示に戻すときは、 ボタンを押下する。
- 環境モニタを終了する場合は、 ボタンを押下する。
- 電波測定の詳細は、別紙の「サービス・マニュアル」を参照すること。



## 着信テスト

接続ユニットと無線電話機間で内線端子別に疑似着信処理を繰り返し行い、最高99回の着信処理中に表示される環境モニタにより無線障害の有無と原因を確認する。

チャクンテスト  
ナイセンタンシNO=\_

内線端子番号（下1桁）1～8を入力する。

（内線端子番号の指定が正しくない、または指定された内線が使用中の場合は、再度内線端子番号入力待ちとなる。）

モニタチュウ # n OK  
01 00 00 00 00 0

上段にモニタ中の内線端子番号（下1桁）、及び毎回の実行結果（OK/NG）を表示する。

下段に着信処理結果別のカウント数を表示する。

（環境モニタは、いずれかの着信処理結果のカウント数が“99”（E-4は、“9”）表示、またはモニタ中に「クリア」ボタンが押下された時点で停止する。）

モニタテイ # n  
99 00 00 00 00 0

E-4：PLLアンロック回数  
E-3：制御チャンネルビジー回数  
E-2：通話チャンネルビジー回数  
E-1：無線電話機無応答回数  
E-0：受信電界強度警告回数  
OK：正常終了回数

### NOTE

- エラーコードの詳細は、次ページを参照すること。
- 接続ユニットが着信鳴動または停止信号送信中に無線電話機の電源がOFFした、または着信鳴動中の内線に应答した場合は、その時点でモニタは停止する。  
「クリア」ボタンを押下し、着信テストを終了すること。

### 注意

- 本テスト中は、無線電話機を操作しないこと。

E-0: 接続ユニットが受信する無線電話機の電波強度が $2\mu\text{V}$ 基準値以下であり、着信に応答しても受信音声を規制（ミュート）する。また、携帯電話機は圏外警告が鳴動するレベルにあることを示す。

対策1: 無線電話機の設置場所を変更する。（マスター電話機から1m以上距離を置く）

E-1: 着信信号に対する電話機からの応答信号を受信できない。

対策1: 無線電話機の電源がONされていることを確認する。

対策2: 無線電話機の設置場所を変更する。（マスター電話機から1m以上距離を置く）

対策3: アッテネータの使用<No.317>を「使用する」または「自動（B $\leftrightarrow$ C）」に変更する。

E-2: 使用できる通話チャンネルに空きがない。

対策1: 周辺ノイズの基となるOA機器、同型のシステム、及び市販のコードレス電話と間隔を置く。

対策2: 通話チャンネル選択<No.153>を“方式2”に変更する。（ $\rightarrow$ Page60）

E-3: 着信信号を送信するための制御チャンネルが使用できない。

対策1: 周辺ノイズの基となるOA機器、同型のシステム、及び市販のコードレス電話と間隔を置く。

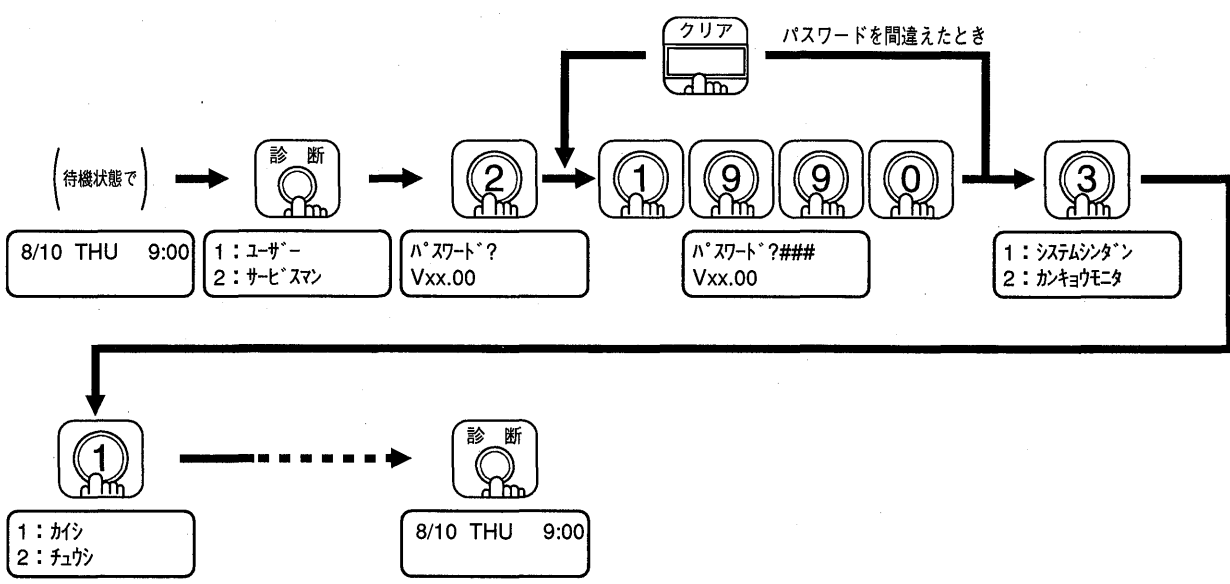
対策2: 制御チャンネル変更する。（ $\rightarrow$ Page58）

E-4: 着信信号を送信する際の制御チャンネル、または通話チャンネルに接続ユニット本体のチューナーが周波数を合わせることができない。

対策1: 内線端子に接続されている接続ユニットを交換する。

## 9. 課金データ転送

外線通話中の料金表示機能、料金集計機能、簡易LCR機能を利用するために課金センターから課金情報をダウンロードする。  
 課金データ転送中のディスプレイ表示、エラー表示の詳細は、次ページ以降を参照すること。



**NOTE**

- 前段の表示に戻すときは、**<** ボタンを押下する。
- 前段の課金データを終了する場合は、**診断** ボタンを押下する。但し、転送の途中で**診断** ボタンを押下した場合、それまで受信したデータは無効となる。
- 外線種別〈No.211〉が全て“PBX/CES”の場合は、課金センターの電話番号〈No.902〉の先頭に捕捉特番“0”を付加すること。

**注意**

- 転送中は、マスター電話機、及びSLTを操作しないこと。但し、転送中に転送音を聴取するためにマスター電話機を受話器を上げる操作を除く。

課金データ転送表示

Step	表示	動作	時間
1	センター 北ダシチュウ	外線種別〈No.201〉が“NTT”で端子番号が若番の外線を捕捉し、課金センターの電話番号〈No.902〉に自動ダイヤルする。	約30秒
2	カキテーブル サクセイチュウ	発信元の電話番号〈No.227〉を基に課金センターで課金テーブルを作成中である。  外線種別〈No.201〉が“PBX/CES”の場合は、設置場所の電話番号〈No.903〉を基に課金センターで課金テーブルを作成する。	約60秒
3	データ テンソウチュウ	課金センターから課金情報を受信中である。	約5分
4	データ転ソウ シュウリヨウ	課金データ転送が終了した。  課金データ転送が正常に終了すると全内線の通話料時間／料金表〈No.331〉を“アリ”に自動変更する。	
5	8/10 THU 12:00	診断ボタンを押下し待機状態に戻す。	

データ設定

- 外線の電話番号〈No.227〉があらかじめ設定してあること。
- 外線種別〈No.201〉が“PBX/CES”の外線を使用する場合は、あらかじめ課金センターの電話番号〈No.902〉の先頭に捕捉特番0を付加し、設置場所の電話番号〈No.903〉を市外局番から登録すること。
- 外線種別〈No.201〉が“NTT、PBX/CES”以外の外線は、課金データ転送できない。

## エラー表示

エラー表示	原因と対策
SLTシヨウチュウ ガイテキマセン	<p>〈原因〉 課金データ転送開始時にSLTが使用中である。 (課金データ転送中は、SLTは使用できない。)</p> <p>〈対策〉 SLTの使用終了後、再度課金データ転送を開始する。</p>
ガイセン シヨウチュウ	<p>〈原因〉 NTTまたはPBX/CESの外線が全て使用中である。</p> <p>〈対策〉 マスター電話機が自動捕捉可能な外線&lt;No.313&gt;で未使用の外線あることを確認し再度、課金データ転送を開始する。</p>
センター バンコウ アヤマリ	<p>〈原因〉 外線種別と課金センターの電話番号の設定に不具合がある。</p> <p>〈対策〉 外線種別&lt;No.211&gt;が“PBX/CES”の場合は、課金センターの電話番号&lt;No.902&gt;の先頭に捕捉特番“0”を付加する。</p>
センター バンコウ ナシ	<p>〈原因〉 捕捉中の外線に電話番号が設定されていない。</p> <p>〈対策〉 電話番号&lt;No.227&gt;を設定する。但し、外線種別&lt;No.211&gt;が“PBX/CES”の場合は、設置場所の電話番号&lt;No.903&gt;を市外局番から設定する。</p>
センター ビジー	<p>〈原因〉 課金センターの応答を検出できない。 課金センターへ最終ダイヤル送出後、ビジートーンを検出した。 課金センターへ最終ダイヤル送出後、40秒以内に外線番号送出要求音を検出できない。</p> <p>〈対策〉 ダイヤル方式&lt;No.212&gt;を確認後、5分程度の時間を置き再度、課金データ転送を開始する。</p>
センター トラブル	<p>〈原因〉 外線番号送出後、80秒以内に課金センターから機種・バージョン要求信号を受信できない。 データ転送が5分以内に終了しない。 課金センターにシステムダウンが発生した。</p> <p>〈対策〉 捕捉中外線の電話番号&lt;No.227,903&gt;または課金センターの電話番号&lt;No.902&gt;が正しく設定されているか確認する。 5分程度の時間を置き再度、課金データ転送を開始しても同様のエラー表示となる場合は、最寄のキヤノン販売に連絡する。</p>
ツクシ エラー	<p>〈原因〉 外線の8芯ラインコードが外れた。 課金センターからデータ転送完了前に切断信号を受信した。 課金データの停電等でデータ転送が途中で停止した。</p> <p>〈対策〉 外線の配線を確認し、5分程度の時間を置き再度、課金データ転送を開始しても同様のエラー表示となる場合は、課金センターに連絡する。</p>

## 10. エラー表示

### 専用電話機

#### 電源投入時のエラーメッセージ

LCD表示	内容と処理
インシアルエラー E20	パワーオン時に専用電話機本体のEEPROMをサムチェックし、エラーが発生したことを示す。 専用電話機を交換する。
インシアルエラー E21	パワーオン時に専用電話機本体のID（呼出符号）をチェックし、ID未登録であることを示す。 ID登録用ツールを用いてID登録を行なう。（→別紙の「サービスマニュアル」参照）

無線障害通知

LCD表示	内容と処理
カクナオシクダサイ E30	発信に先だって接続ユニットに制御チャンネルを使用して送信する通話チャンネル等指定の信号が他で制御チャンネルを使用されているために送信できない。
カクナオシクダサイ E31	発信に先だって接続ユニットから制御チャンネルを使用して送信されるはずの通話チャンネル等確認の信号を受信できない。
カクナオシクダサイ E32	使用できる通話チャンネルに空きがない。
カクナオシクダサイ E33	機能ボタン、及びダイヤルの発信操作に対して接続ユニットから通話チャンネルを使用して送信されるはずの確認信号を受信できない。
カクナオシクダサイ E34	PLLアンロック 専用電話機本体のチューナが使用する制御チャンネル、または通話チャンネルに周波数を合わせることができない。
セツタンサレマシタ E40	通話中に接続ユニットから専用電話機に送出されている通話チャンネルのキャリアが途切れたために通話が切断された。
セツタンサレマシタ E41	MSK通信エラー 無線通話中に接続ユニットから専用電話機に通話チャンネルを介して送出されるLCD・LED情報が正常に受信できない。
セツタンサレマシタ E42	MSK通信エラー 無線通話中に接続ユニットから専用電話機に通話チャンネルを介して送出されるLCD・LED情報が正常に受信できない。
セツタンサレマシタ E42	MSK通信エラー 無線通話中に接続ユニットから専用電話機に通話チャンネルを介して送出されるLCD・LED情報が正常に受信できない。
セツタンサレマシタ E50	『ジュキヨイテクダサイ』のエラーメッセージが表示されてから20秒以内に受話器を戻さないため無線チャンネルを強制的に切断した。

NOTE




- 受話器を上げた状態でエラーメッセージ、及び無線障害通知が表示された場合は、20秒で『ジュキヨイテクダサイ』と表示されその後、20秒以内受話器を置かない場合は、無線チャンネルを強制的に切断し『セツタンサレマシタ E50』を表示する。
- 受話器を置いた状態でエラーメッセージ、及び無線障害通知が表示された場合は、20秒で無線チャンネルを強制的に切断し『セツタンサレマシタ E50』を表示する。



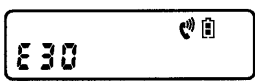
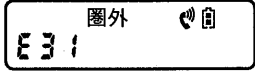
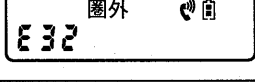
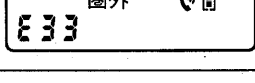

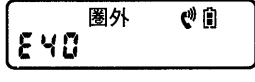
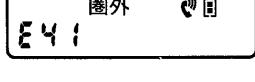
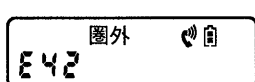
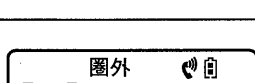
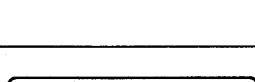
電源投入時のエラーメッセージ

LCD表示	内容と処理
E20	パワーオン時に専用電話機本体のEEPROMをサムチェックし、エラーが発生したことを示す。 移動電話機を交換する。
E21	パワーオン時に移動電話機本体のID（呼出符号）をチェックし、ID未登録であることを示す。 ID登録用ツールを用いてID登録を行なう。（→別紙の「サービスマニュアル」参照）

キャラクタ表示

LCD表示	内容と処理
	受信電界強度表示 受信電波が弱い場合は、ピッピッの警告音が1秒間隔で鳴動し、最初の警告音が鳴動してから連続して50回鳴動後に通話は切断される。
	電池残量表示 充電状態を3段階で表示する。 要充電状態の場合は、ピッピッの警告音が10秒間隔で鳴動する。最初の警告音が鳴動してから約1時間で電池残量は0になる。
	受話音量表示 受話音量の音量状態を3段階で表示する。 受話音量ボタンを押下する度に中→大→小→中の順番で切り替わる。
圏外	圏外表示 圏外表示の前にピッピッピッの警告音が鳴動する。

無線障害通知

LCD表示	内容と処理
	発信に先だつて接続ユニットに制御チャネルを使用して送信する通話チャネル等指定の信号が他で制御チャネルを使用されているために送信できない。
	発信に先だつて接続ユニットから制御チャネルを使用して送信されるはずの通話チャネル等確認の信号を受信できない。
	使用できる通話チャネルに空きがない。
	機能ボタン、及びダイヤルの発信操作に対して主装置（接続ユニット）から通話チャネルを使用して送信されるはずの確認信号を受信できない。
	PLLアンロック 携帯電話機本体のチューナが使用する制御チャネル、または通話チャネルに周波数を合わせるができない。
	通話中に接続ユニットから携帯電話機に送出されている通話チャネルのキャリアが途切れたために通話が切断された。
	MSK通信エラー 無線通話中に接続ユニットから携帯電話機に通話チャネルを介して送出されるLCD・LED情報が正常に受信できない。
	MSK通信エラー 無線通話中に接続ユニットから携帯電話機に通話チャネルを介して送出されるLCD・LED情報が正常に受信できない。
	MSK通信エラー 無線通話中に接続ユニットから携帯電話機に通話チャネルを介して送出されるLCD・LED情報が正常に受信できない。
	発信、または着信のエラー状態から20秒以内に待機状態に戻さないため無線チャネルを強制的に切断した。

NOTE

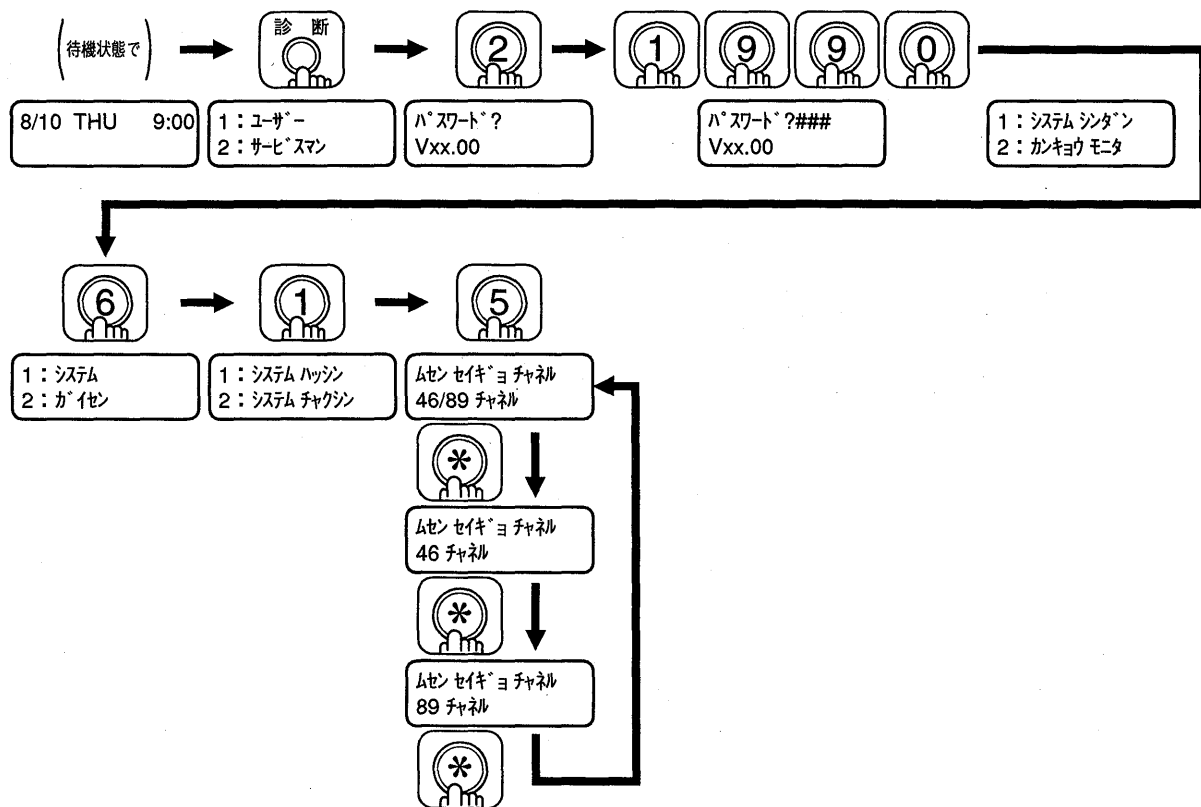
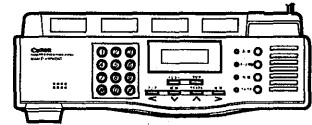
- 携帯電話機の無線障害通知時は、ピッピッピの警告音鳴動後表示される。
- 携帯電話機は、発信状態から1分以内にダイヤル操作がない場合は、1秒間隔で警告音が鳴動する。警告音が鳴動し始めた場合は、いずれかのボタン（特に設定ボタン）を押下するか、または通話ボタン押下すること。

## 11. 無線対策

### 11-1 制御チャンネルの変更

設置時のパワーオン、または運用中に制御チャンネルビジーによる障害が発生した場合は、障害が確実に発生していることを確認した上で下記の対策を行なう。

Step 1 マスター電話機から接続ユニットの使用制御チャンネルの設定を変更する。



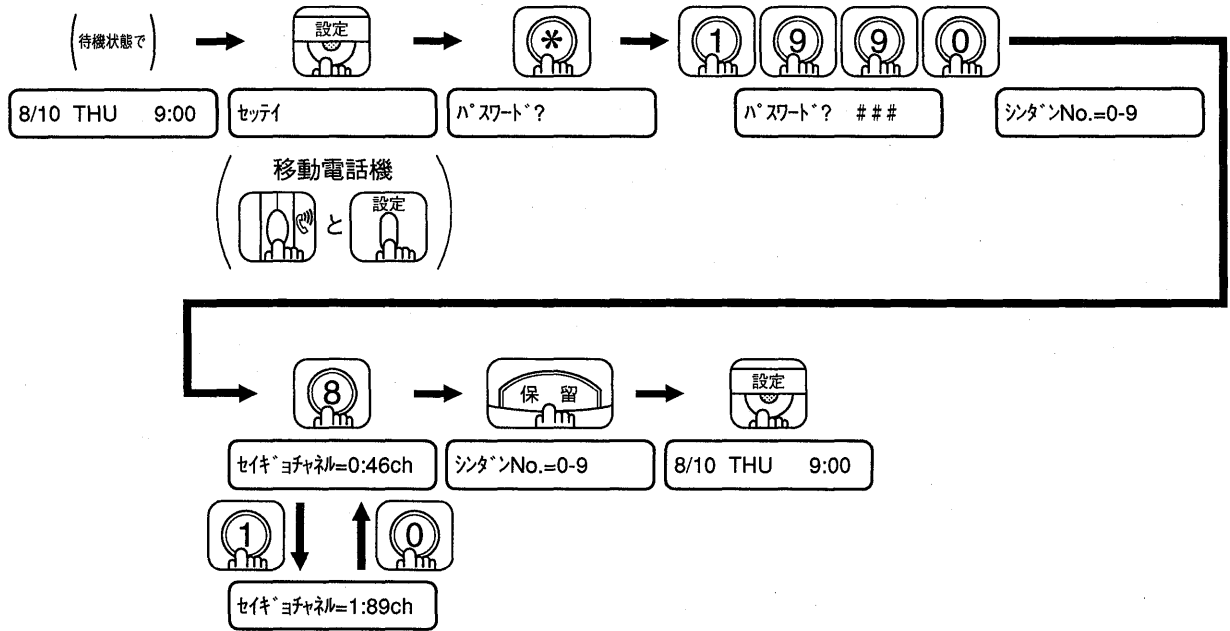
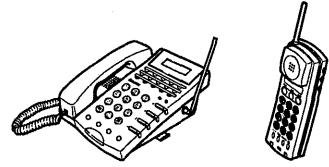
#### NOTE

- 前段の表示に戻す時は、**<**ボタンを押下する。
- 設定値は、**<**、**△**、**▽**、**診断**ボタンを押下した時点で更新する。
- システムデータを終了する場合は、**診断**ボタンを押下する。

#### 注意

- 使用制御チャンネル <No.151> の設定を変更した場合は、同時に各無線電話機の制御チャンネルを変更すること。 (→Page59)

Step 2 全ての無線電話機から制御チャンネルの設定を変更する。



無線  
対策

NOTE

- 工場出荷時は、全ての無線電話機セットが46chの制御チャンネルである。
- 電源投入後は、使用制御チャンネル〈No.151〉の設定に従い、設定値が“46/89チャンネル”の場合、内線端子が奇数番の無線電話機を46ch、偶数番を89chに自動設定する。

注意

- 制御チャンネルの変更を行なった場合は、変更後に発信操作し、下記の無線障害通知が表示されないことを確認する。(移動電話機の無線障害表示は、Page57を参照する)

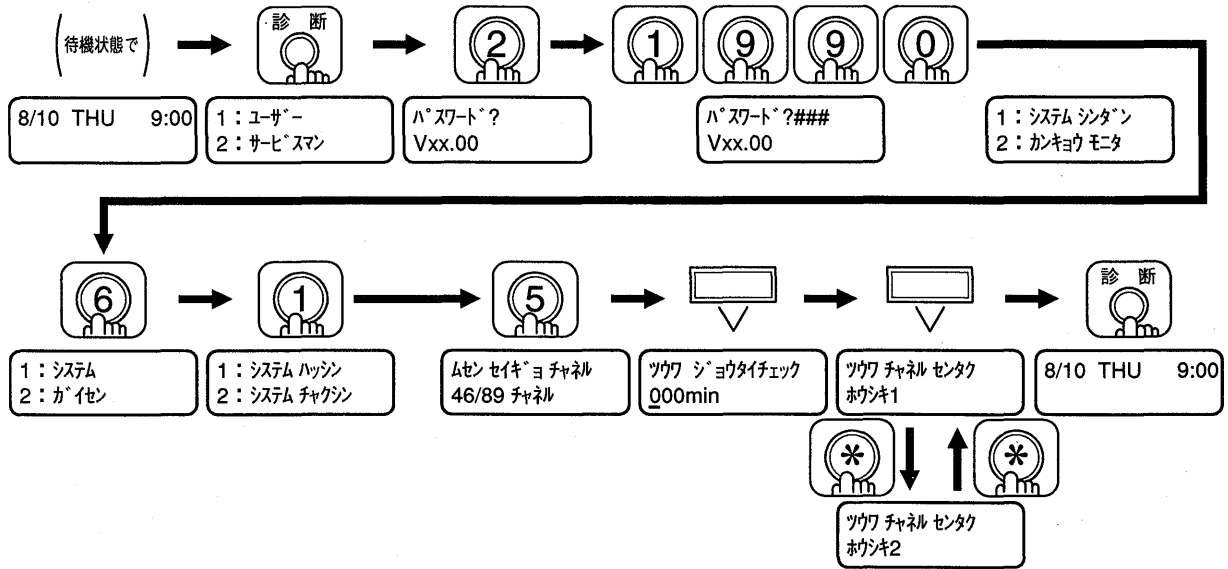
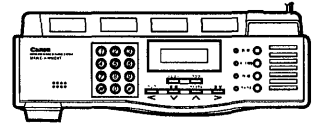
カカノシタサイ E31

- 制御チャンネルを89ch、または46chに統一して使用する場合は、着信鳴動までの時間が長くなる、または発信操作の重なりによる無線障害通知が発生し易くなることに注意すること。

## 11-2 通話チャンネル方式の変更

運用中に通話チャンネルビジーによる障害が発生した場合は、障害が確実に発生していることを確認した上で下記の対策を行なう。

マスター電話機から通話チャンネルグループを方式2に変更する。



### NOTE

- 前段の表示に戻す時は、[<]ボタンを押下する。
- 設定値は、[<]、[△]、[▽]、[診断]ボタンを押下した時点で更新する。
- システムデータを終了する場合は、[診断]ボタンを押下する。

### 注意

- 通話チャンネルの方式を変更した場合は、変更後に全ての無線電話機を同時に発信状態とし、下記の無線障害通知が表示されないことを確認する。(携帯電話機の無線障害表示は、Page57を参照する)

オカナホクダ<sup>サ</sup>イ E32

## 11-3 その他

### 11-3-1 通話状態チェック周期

設置環境が悪く、無線電話機が通話を終了しても接続ユニットが切断信号を受信できずに無線路を占有する場合は、通話状態チェック周期〈No.152〉の時間間隔を設定する。

通話状態チェック周期が設定されている場合は、通話中に設定間隔で無線電話機に確認信号を送信し、無線電話機が応答しない場合は、無線路を切断する。確認信号は、接続ユニットが受信する電波の強さが弱い場合のみ送信される。

通話状態チェック周期の詳細は、別紙の「サービスマニュアル」を参照すること。

### 11-3-2 ミュート処理

接続ユニット、及び無線電話機は、それぞれ受信する電波の強度が特定のレベル以下になると受信音声信号をミュートし、過剰な雑音を防ぐことができる。

工場出荷時は、専用電話機はミュート処理を動作し、移動電話機はミュート処理を動作しない“自動”に設定されている。

ミュート機能が動作すると音声は雑音の度に途切れてしまい、会話できないため、全て受信音声信号をミュートしたくない、またはミュートしたい場合は、ミュート処理〈No.318〉で内線ごとの設定を変更すること。

ミュート処理の詳細は、別紙の「サービスマニュアル」を参照すること。

### 11-3-3 アッテネータの使用

通話中に接続ユニットが受信する電波の強度が特定のレベル以上になると減衰器をONし、特定のレベル以下になると減衰器をOFFすることにより送出電力を調整し相互干渉を抑え、通話可能距離を延ばす働きをする。

但し、無線電話機の減衰器切替は、接続ユニットの指示に従うことから切替時は、雑音（切替信号）が双方向に発生する。

切替時の雑音が気になるため、減衰器を常に使用しない、または使用する場合は、アッテネータの使用〈No.317〉を内線ごとに変更すること。

アッテネータの詳細は、別紙の「サービスマニュアル」を参照すること。

### 11-3-4 外線通話時受話音量調節

特定の外線による外線通話中の受話音量が小さい場合は、外線受話音量〈No.316〉を内線ごとに変更すること。

#### NOTE

- システムデータ設定の詳細は、別紙の「サービス・データ・シートの手引き」を参照すること。

付 録

内線診断エラーコード一覧

エラーコード	項 目	対 策
30 60	制御チャンネル ビジー	対策1：周辺ノイズの基となるOA機器、同型のシステム、及び市販のコードレス電話と間隔を置く。 対策2：制御チャンネル変更する。(→Page58)
31 61	無線電話機無 応答	対策1：無線電話機の電源がONされていることを確認する。 対策2：無線電話機の設置場所を変更する。(マスター電話機から1m以上距離を置く) 対策3：アッテネータの使用<No.317>を「使用する」または「自動(B←→C)」に変更する。
32	通話チャンネル ビジー	対策1：周辺ノイズの基となるOA機器、同型のシステム、及び市販のコードレス電話と間隔を置く。 対策2：通話チャンネル選択<No.153>を“方式2”に変更する。(→Page60)
34 64	PLLアンロッ ク	対策1：内線端子に接続されている接続ユニットを交換する。
35	制御チャンネル 使用許可タイ ムアウト	対策1：マスター電話機(主装置)の電源をOFF/ONする。 対策2：メインボード2または、2内線増設カードを交換する。

NOTE

- トラブルシューティングの詳細は、別紙の「サービスマニュアル」を参照すること。
- 制御チャンネル、及び通話チャンネルグループの変更を行なう場合は、十分に注意すること。

**Canon**